2—753

明治四十四年八月一日第三種郵便物認可（毎月一回十五日發行）
大正三年七月十五日發行

顧問 伯爵 大隈重信　會長 島田三郎
同 森村市左衛門　副會長 安部磯雄

# 廓清

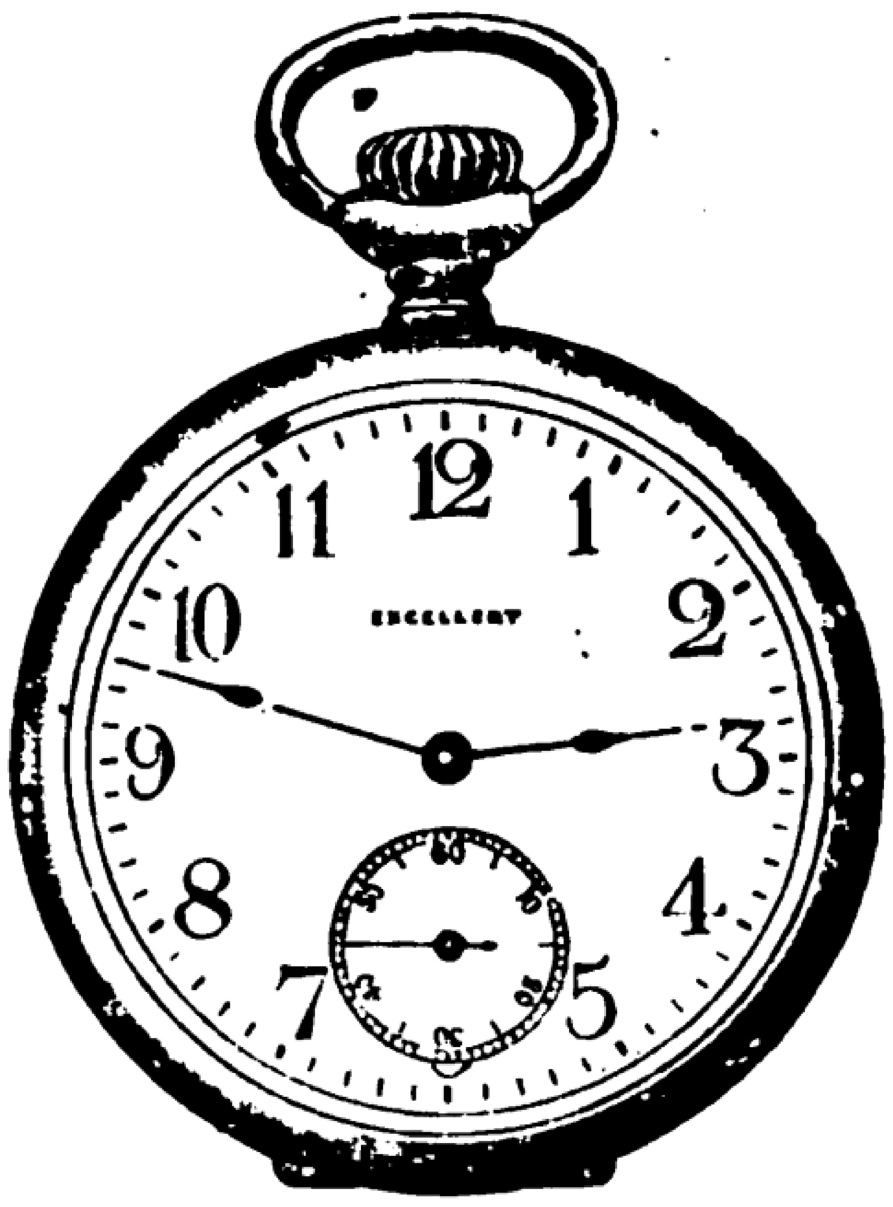
第四巻
第七號

東京
廓清會本部 發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 營業品概要

精工舍製懷中時計
歐米製各種時計類
双眼鏡及各種眼鏡
測量用諸器械一式
製圖器度器及附屬
氣象用航海用器械
プラチナ地金及製品
ダイヤモンド及諸寶石
貴金屬製諸美術品
寶石入各種裝身具



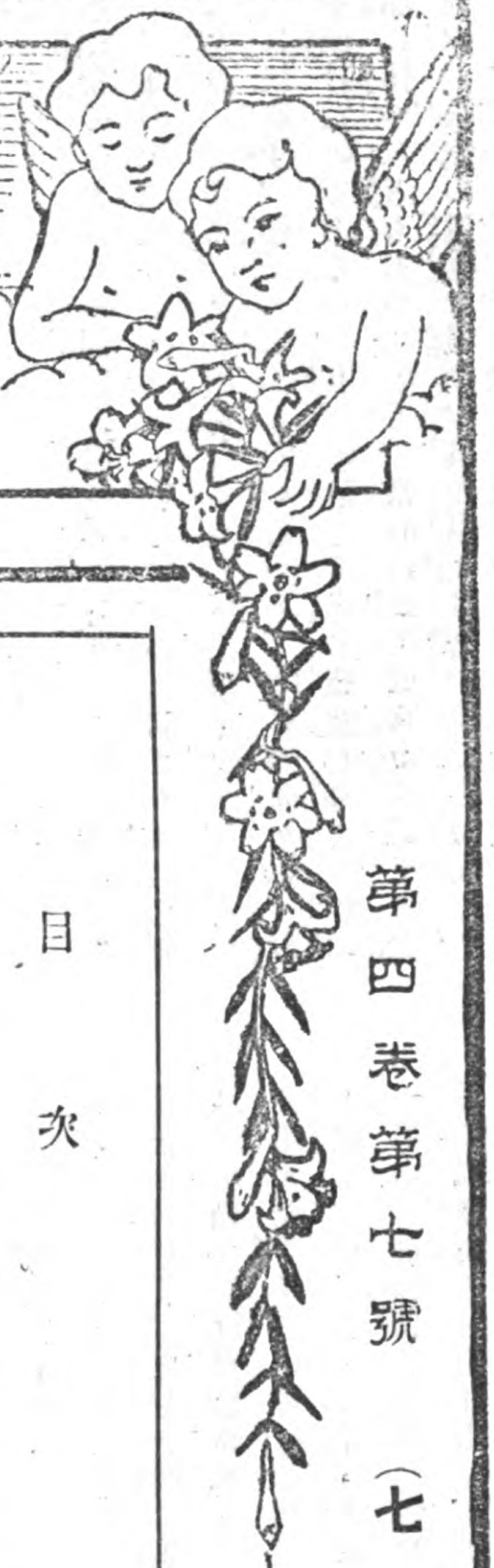
東京銀座四丁目

## 服部時計店

電話京橋 一三〇〇 一三〇一 一三〇二 一三二三 一八〇〇

營業一覽御申越次第郵送可仕候

# THE PURITY
# 廓清



第四巻第七號
（七月）

目次

□大正の新氣運……………島田三郎
□貿易上より見たる日本の危殆…森村市左衛門
□生れざる者に對する義務……内ヶ崎作三郎
□感化事業の趨勢……………井上博士
□人道の罅隙……………服部純雄
□暗黒面を探險した女の告白……里子
□大正二年度の事業報告……益富政助
□廓清會總會記事……………江南

□大正二年度の會計報告……………山本邦之助
□天籟地籟……………會員の聲
□雜誌之雜誌
▽宗教界　▽政治界　▽思想界
▽修養　▽生活　▽家庭
▽育兒　▽談叢……諸名家
□大なる社會運動（英文）……コーツ博士



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

會説

# 大正の新氣運（一）

廓清會々長　島田三郎

## 一、遊廓の起源

本日は我が廓清會の創立滿三年の祝日で、午後の二時より同志の大會があり、夕刻より此の演説會が開かれたのであるが、斯く多人數がお集りになり、此の暑いのに吾等同志の演説をお聴きになつて、半日の時間を費すと云ふ事は、已に此の廓清問題が世の所謂閑問題でないと云ふ事を證據立てゝ居ると思ふ。吾等同志は諸君に對し、吾等の間には已に陳腐に屬して居る事でも、廓清の趣意のある所、希望の存する所、其態度、其運動等に就てお話しする事は、吾等の職分であると思ふ。

廓清會の起りは三年前に吉原遊廓の燒失したのが動機であるが、此の思想は其よりズツト以前に、吾々同志の間に成立つて居たのである。先づ遊廓なるものゝ沿革を調べて見るに中古には舞子、藝子と云ふものがあつて、歌舞音曲を以て歡樂を助けたのであるが、其が堕落して今の藝妓の様に、客の枕席に侍つた者もあつたので、當時に於ては官吏も武士も之を玩び、公家の道德も亂れ、其の腐敗は宮中までも及んで居たので、其頃の宗教家、名僧智識と云はれる者も、慈悲の眼を以て之を視、假ひ惡事をなすも彌陀を信ずれば救はれると云ふ所から、淫を鬻ぐと云ふことを左程に惡い事と思はなかつた。德川氏の時代に及んで、所謂浪人者と云ふが出來て、智慧もあり學識もあるものが、主君を持たずに民間に流浪して居て、動もすると政府に反抗する態度を表はし、中には由井正雪の如く陰謀を企つる者さへあつたので、德川政府は之を恐れ、何とかして之を取締らねばならぬと思ひ、遊女屋を利用して、浪人の内情を探偵せしめたのである。其に德川政府は諸大名を制御する爲に人質制度を設け、諸大名を江戸に住はせて置いたが、其始めは住宅もバラツク式で、其處に住んだ人は男子が多かつたので、此等の人々の爲に遊女の必要を感じ、始めは湯屋に婦女を置いた事もあつたが、後には遊女屋を設けて、之を一所に集める事になつたのと、今一つは大名が國から江戸に參勤する時道中ではお供の者が遊女を買ふことを許すことになつて、此等大名の宿泊地には遊女屋を公許したのである。是が遊廓が江戸にも將各地にも出來た源である。後に世は太平に慣れて、遊女を弄ぶ者が多くなり、遂には學者も、武士も、遊廓に立入るを恥とせぬ様になつたのである。



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

## 二、遊廓の全盛時代

酒井若狹守の次男に抱一と號し、削髮して畫家となつた人があつた。此人の畫は今日でも頗る高い價で賣買される。文化年中で徳川十一代將軍の時代の人である。其友人に龜田鵬齋と云ふ詩人で書家があつた。此二人などは吉原の妓樓に遊んで、酒を飲み娼婦を相手にして、時々豪遊を試み、之を以て一の風流と稱した者であつた。又蜀山人は狂歌を以て名を轟かした人であるが、此人は一方から見れば高潔の人士で賄賂の氣の無い、下々の人に對しては慈悲心が深い人であつたが、此人も吉原の遊廓に於ては中々の通人であつたらしい。其外徳川氏時代の學者、詩人、書家、畫家などが、吉原に遊んだ事は、近頃圖書刊行會で出版された其當時の種々の本に散見して居る。又遊女を畫いた者、遊廓を畫いた者も盛んに公刊せられ、其中の或者は英國のケンシントンのミユーゼアムに陳列せられて、日本の恥を永久に外國人の間に晒して居る。又遊女を題として作られた劇が今日でも殘つて時々公演せられ、忠臣義士の鏡と謳はれる赤穗義士の事を劇にした有名なる『忠臣藏』にも遊女屋の場所があれば、親孝行の模範たる曾我の仇討にも大磯の『虎少將』が關係し、白石噺や千兩幟などは純然たる遊女物語である。又徳川時代より明治の代にかけて、恐ろしき殺人犯、例へば幾人斬など云はれる者は、多く吉原遊廓を中心として起つて居るのである。實に徳川時代は遊廓が全盛を極めた者であるが、是は當時に於て人間の人格と云ふものを認めなかつたので、人身を賣買し、之を奴隷の如くに扱ひ、恥づべき行爲をなさしめても、何等の罪惡を感じなかつたのみならず、時として娼妓に下るのは出世の爲であり、親の爲に身を賣るのは、偉い親孝行であると云つて、之を賞讃したのである。

## 三、其間に尙正義の士あり

然し其中にも心ある人は、遊廓の甚だ有害なる事を認めて大に之に反對した人がないでもない。彼の米澤の上杉鷹山公と稱せられた人は、今神と祀られて居るが、此人は非常に慈悲深く、又事を斷ずるに勇敢な人であつた。公は遊女なる者は最も非倫の甚だしい者で、國民には有害無益なものであるとなし、領地内の遊女を禁じたのである。是は當時に於ては珍らしい事であつた。其より降つて安政年間に井伊直弼公は其領地が佐野にあつたが、其處に遊女屋があつたのを、直弼公は聽かれて『惡いならば直に廢せよ』と云はれ、『其が爲に樓主が損をするならば、其は此方から償へ』と云つて、斷然之を禁止せられた。時は徳川十一代將軍の代で、今を距ること殆んど百年前、世は徳川の文化を謳歌して、何時までも斯く太平であると思ひ、官吏の間には賄賂公行し、學者も武人も一樣に腐敗し、國家將に衰へんとする時に當つて、斯く斷然遊女を嚴禁せられたのは頗る英明の處置と云はねばならぬ

## 四、娼妓解放の由來

明治五年に至つて是までの女郎なるものを廢し、之を出稼

ぎ娼妓と命じ、女郎屋なるものを貸座敷と改名し、奴隷制度を改めて、自由なる營業の如くになしたのは、一つは當時の當路者に英斷に富んだ人があつたからでもあるが、其動機は全く海外より輸入せられたる思想に據つて起つたのである。時に一隻の外國船があつて、支那より買入れた多數の奴隷を載せて我が國の港に入つた。處が其奴隷の中虐待に堪へずして船室より飛び出し、海を游いで海岸まで逃げのび、助けを我が官憲に求めた者があつた。當時我が政府は百事改進の時代で官吏は皆新進氣鋭の士に富み、今日の如くに未だ吏臭に溺れない。所謂潑溂たる氣に充ち〳〵て居た時であるから、奴隷を賣買することは人道に戻つて居る。之を解放せしむるは帝國の義務であると考へ、其外國船に掛合ひ、とう〳〵其の救助の目的を達したが、さて外國人側から種々の批評が起つた。其中に『日本政府は奴隷を載せた船を抑留し其奴隷を解放せしめたが、自分の國では遊女屋と云ふがあつて、遊女は其身を其持主に賣つて居る。のみならず淫を賣ると云ふ事をさせられてゐるのではないか。是こそ立派なる奴隷である。其に拘はらず、他國の船を抑留して、奴隷を云々するの權利はない』と云ふ批評があつたので、政府の人々も成程さうであると氣が付いて、俄かに遊女は奴隷ではない、全く自分の意思に由つて營業をなすもの、樓主は單に遊女に其場所を貸すものであると云ふ樣に定めて、女郎屋が貸座敷となり、遊女が出稼ぎ娼妓と云ふ事になつたので、從來の如くに身を賣ると云ふ事を嚴禁する樣になつたのである。政府の方では斯く進んだ思想を實行する樣になつたが、社會一般はまだ娼妓を非難する程には進んで居ない。寧ろ娼妓は非倫不德の者であると云ふ思想は無つたのである。故に制度上では娼妓は自己の自由意志で稼業して居るのであり、樓主は之に座敷を貸すに過ぎないと云ふ事になつて居ても、其實は身の代金は前借と云ふ名になつたばかりで、矢張り人身賣買が行はれ、奴隷制度が現存して居るので、此の大正三年の今日まで、山室大佐が熱烈を以て話された如き悲慘な事が帝國の中にも行はれて居るのである。是が單に官吏の目の及ばざる裏面に於てのみ存在するのではなく、法律を勵行すべき官吏、警察官までが、貸座敷の友となつて、此の人身賣買、奴隷制度を保護して居ると云ふことは、實に奇怪至極である。國民たる者茲に奮起して、半世紀前に解決したる此の惡制度を大正の聖代に殘して置かぬ樣、之が矯正を計らねばならぬ。

## 五、廢娼運動の濫觴

其後明治二十二年であつた、公娼廢止論が基督敎界の方から起つて盛んに論議せられたが、時未だ至らずと見えて、其聲は次第に衰へ、遂に消えて終つたが、其時の運動の賜ものと云ふのは、群馬縣の同志の人、殊に縣會議長をして居た人が同志の人であつたが爲に、少くも同縣内には公娼を廢止しようと云ふ事を提議し、縣會で、同縣内には公娼を置かぬと云ふ事を決議し、爲に娼妓なる者の跡を同縣内に絶つに至つたのである。尤も此の外に縣内の公娼を廢止した縣がない譯



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ではない。即ち埼玉縣では已に公娼を廢止して居た。是は當時の縣令は白根太助氏であつたと思ふ。群馬縣を廢止した縣令は楫取元彥氏で、此人は吉田松陰先生の妹を妻とした人で三條公等と維新の前後國事に奔走した人であつた。此の人々はまだ吏臭其腸を腐らしめざる時で賄賂の氣がなかつたから、之を禁止することが出來たのである。尤も此の時の埼玉縣は今日の埼玉縣より狹かつたので、其側に熊谷縣と云ふのがあつた。其處では娼妓を廢止しなかつたのが、後埼玉縣に合併せられたので、道理の光は暗黑を照す能はず、其廢さなかつた公娼は埼玉縣に合せられた後も、其處だけは其儘殘つて居るから、今日の埼玉縣では未だに二ヶ所遊廓が殘存して居る。一體埼玉では『飯盛り』と云ふ名で娼妓が多く存して居たが、北國の大名が江戸に參勤する時彼處を通つて、宿泊したので、熊谷、鴻巢と云ふ樣な處に此の遊女屋が出來て居たのであつた。和歌山縣も全廢した。是は藩であつた時に廢したのであらうと思ふ。斯くの如く地方々々で正義の聲が追々勝利を得て來たのに、何ぞ計らん中央政府では遊廓を以て無用有害の者となして、帝都の吉原其他の遊廓を廢止することが出來ず、却つて必要なる場所には之を許すと云ふので、縣知事も其意を受けて廢娼を斷行することが出來ず、一旦全廢した和歌山の如きも必要があると云ふので、之を再興する事になり、其片隅の方ではあるが、一ヶ所遊廓を見るに至つた、群馬縣では草刈親明が知事をして居た時、其職を罷められる間際、多分の賄賂を貰ふと云ふ約束で、再び之を許すと云ふ事になつたが、縣民が激烈に之に反對したので、爲に其光輝を汚さなかつたのである。其後栃木縣足利などにも遊廓を設けんとするの運動が起つた事があるが、幸にして之も中止した。

## 六、遊廓設置運動の原因

何故に斯く遊廓を設置することに就いて賄賂を贈り、縣會を買收する等あらゆる方法を用ひ、此の非倫非道の者を設けんとするかと云ふに、如何なる所でも一遊廓が設置せらるれば、先妓樓を造るが爲に土地の價格が騰貴し、土木工事が起るので建築師と地主が利益を得ることになる。其外には吳服屋も賣れゝば、飮食店も繁昌すると云ふので、中央都會に居て醜業で金を儲けた人は、金錢を所持して居り、且此等の事に慣れて居るから、其金を以て地方に出懸け、地方人の中私利私慾に耽溺し、金錢の爲には何事をも爲さゞることなしと云ふ人を抱込み、當路者又は縣會議員等には賄賂を行使し土地所有者をば瞞著して廉價に買置き、一朝許可せらるゝに及んでは一攫萬金の利を得んとしつゝあるので、かゝる私利私慾者の爲に人道上非理非道なる奴隷制度が其處此處に行はれつゝある。是は實に國家の大問題である。若も之を其儘に放任するならば道德は腐敗し國家は衰微すべきである。(未完)

### △醜業者は叩かざる可からず

英國にては醜業婦又は醜業者に對する輿論の制裁甚しく、「動物を教育するには叩かざる可からず」とて非人道なる野蠻の刑罰として疾く廢絕せられたる笞刑を醜業者に適用する事となりたるは、旣に紹介したる處なるが、今回香港に於ても此主義を實行する事となりたる由にて、殊に同地にては男子が醜業婦を抱へ、若くは共同にて醜業を營む事を嚴禁した。



Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

論議

# 貿易上より見たる日本の危殆

府清會顧問　森村市左衛門

私は元來商人である、從つて諸君に道義の振興、社會の廓清を說くが如きは筋違ひの者である。然るに其不得手な事を敢てせんする所以のものは、維新以來斯くなるであらうと思つて居た豫想が外れたからである。泰西の燦然たる文物制度を輸入し、新文明の空氣に觸れたる日本は、もつと立派に發達するであらうと思ふて居たのに、何ぞ圖らん社會は上下を通じて腐つて來た、それを見てはどうも凝乎として居れなくなつて、斯樣に各地の諸君にお眼にかゝつて、お願をする次第である。

○代々木の夜に列した或人の話に、玆から何列になつてと嚴しく申付けられて居ながら、列を亂して隣同志で遠慮もなく話しながら歩いてゐた者があつた。而も其話が冗らぬ浮世話で、甚しきは株が何うとか斯うとかなどゝいふ聲も聞えた。それが金モールをつけた人々の口から出たといふ事である。

日本は今や寒心すべき大患に罹つて居る。六千萬の人を乘込ませてゐる日本丸の機械には銹が生じてゐる、其底は腐蝕して穴が明いて居る、賄賂や借金や不道德の穴がどつさり明いて居る、船は左へ行くかと思ふと內閣の更迭で右に向く、航海の針路さへ定まつて居ない。否啻に內部の疵ばかりではなく外部にも病患を有するのである。排日運動が卽ちそれで隣の支那にも起つて居る。日清戰役以來日本人が支那人に對する侮蔑の結果は無情だ失禮だと其恨みを買ふに至つた。米國に於ける排日運動も亦米人の自動のみではない。

○如斯內と外とに大病を有つて居る間に露西亞は甚麽考へで進んで居るかといふと、三十七八年の戰役後は、國內の士氣を振興して是非共日本を壇の浦に追ひ落さねばならぬと國民を敎育して居る、獨逸はまた日本の口と手を壓へやうと努めて居る。この角力には骨が折れるのである。彼れには金力があり、智力があり、學術と經驗とがある。私達が常に戰ふて居る對手は獨逸であるが、彼が商業の上に日本の手と口とを押へんとする熱心は素晴しいものである。機械力を以て科學の力を以て、日本品を盛んに模造し精巧な物を安く商ふて攻めかける、現に漆器や扇子や象牙細工やナフキンやは獨逸に奪はれた。今私の商會では陶器を以て盛んに戰をなしつゝある。幸ひ外人の中にも我等の味方があつて種々の智識を貸して呉れるので、昨年或種のものを成功させて獨逸商人と猛烈なる對戰中である、本年は少しく輸出が減じた樣であつたが、此陶器のみは盛返して必ず勝利の覺悟を有してゐる。乍併此外にも奪はれる物は多からうと思ふ。最もお得意の支那に於てすら日本品は種々の事情から追落されつゝある。



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○一體品物を原料の儘輸出するのは未開國の業である。佛蘭西の絲は織物となつて出で、英國の鐵は機械となつて海を渡る。然るに日本のは僅に羽二重位が金目のもので、石炭と云ひ銅と云ひ生絲といひ總て原料の儘で出て、智慧で作り上げたものとては殆んどない。これは日本人に愛國心と力量と智識が足らぬ爲である。公方樣に縋るとか殿樣に賴るとか、乃至政府に任すとか萬事人に賴つた、自主獨立自治の心に缺けた舊幕時代の遺風が取れず、眞實に家國を思ふ愛國人がないから『何うにかして吳れやう』『何うにかなるだらう』で機械に錆がつき底に穴が明いてゐる船に、うか／＼乘つてゐる。

露國では昨年輸出超過や其他で六億の金が剩つて居る、之を二十年積むと利子共二百億になる、然るに日本では借金の利子も還されない。利子を拂ふ爲めに又金を借りて借金が增すばかりである。いざといふ場合に這麼事でどうする積りだ

門司に行つた時或人に聞いたのに、十七になる一丁稚が志を立てゝ印度で一つ事業を起さうと止めるのも容かず飛び出したが、今日では緬甸に於て日本商人の一二を爭ふものになつて居るといふ事である。『何うにかなる』と暢氣に構へず、此人の樣に『何うにかする』でなければならぬ。

私が貿易商を營んだのは四十年前である、福澤翁と相談した處、貿易は平和の基である、國家の爲であるからと云はれたので、止める人もあつたが遂にやつた、所がお蔭で今日迄年々損失を見た事はない。國民の精神さへ堅固であるならば必ずやり遂げられる。決して國の滅びる樣なことはない。それならとて私は無學な者であつてどうすればよいか判らないそこで皆さんの智識と學問が借りたいのである。而して列國に負けぬものを作つて輸出したいのである。私は斯くして一本の燐寸を擦つて步くから、諸君はよろしく國家の爲めに燃へ光を放たなければならぬ。國家の爲めに財を積んでそれを國の危急に注ぐ、六千萬の乘組員は心を一にして其底に明いた穴へ靴下でも何でも詰めて埋めて欲しいのである。さうでないならば時が來て沈むより外はない。

私は昨年來此火を點ずる仕事の爲めに、老人の冷水と云はれながら神に一命を捧げて奔走する事に決めた、命も財產も此仕事には惜しまない考へである。私は商人であるから國の前途もまた算盤で彈き出して斯くの如く憂ふるのである。

○東洋を對手の商戰といふが、支那丈を得意とするのでは國家の經濟が困難である。堀越といふ人の話に、歐洲旅行の汽車中で一獨逸人が『日本人は愛國心がない。見給へ私の服裝は頭の上から足の先迄自國品以外は着けない』と話した。堀越君は自分の服裝を顧みて顏を赭くしたといふ。又一外人は目下列國中で輸出入の平均がつかない國は、土耳古と支那と日本ばかりだと嘲つた、土耳古や支那と一緒にされて一等國の面目何處にありや。どうにかなるだらうと氣候のよい日本に安閑と眠つて居られる秋ではない、私は其眠から醒さうとて『社會廓清』の鐘を打ちつゝお願するのである。（於京都廓清會）



Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 生れざる者に對する義務

郷濟會理事　内ケ崎作三郎

## 一、誤れる自我主義

我々の周圍には家族といふものがある、大にしては國民といふものがあり、更に或は人類といふものがある。乍併家族も随分大きなもので、我々の眼の前にある家族は五人か十人に過ぎないが、真實の家族は先祖代々を數へなければならぬ。我々は太平の民であるが、元龜天正の頃は我々の祖先は戰爭ばかりして居つたのである、斯樣に考へて來ると家族といふものは中々尨大なものである。故に自分は家族が少くて寂しいとか、一人きりで心細いとかいふのは徹底して居ない人の事である。我々は幾億といふ樣な大きな數を有つて居る、過去現在を合せた國民の數、或は人類の數は實に如斯大きいが、未だ生れざる人類の數に至つては、過去幾百億の人類の數も物かはである。

乍併實際に於て我々の家族とか人類とか云ふ思想の中に、人類の子孫を眼中に置いて話して居る人、考へて居る人、政治を執つて居る人があるであらうか、それは極めて少數であると考へざるを得ない。諸君の大多數は僅に三十年前乃至五十年前には生れて居なかつた、矢島先生猶且つ八十餘年前迄は現世の人ではなかつた、此の一事よく未だ生れざる者に對する關係を語つて明白であると思ふ。茲に居られる安部先生、山室先生、矢島先生、島田先生皆是れ當代の名士諸君であるが、人類が過去に於て進歩した如く將來に於ても進歩するものとせば、島田先生以上、安部先生以上、山室大佐以上の人物が出らなければならぬ、然らずんば進歩はないのである。茲に於て人類は自分より偉い者を生むのを以て一大理想としなければならぬといふ事になるのである。我々は教育に從事して居る者であるが、健康腦力あらゆる點に於て自分以上の者を作るのが予の理想である。予は又一面に宗教に携はつて居るが、やはり自分以上の信者を生み出さないならば、自分の職分を完うし得たと考へ得ないのである。

斯くの如く觀じ來れば個人の命は一層尊嚴となるのである「我」といふ小いものを通じて永遠にまで續き行く生命の連鎖は何と尊嚴でないか。今日の誤られたる個人主義自我主義は、個人には絶對の自由があるといふて個人の利欲、自己滿足、自己充實、乃至、自己擴張と何でもやるがよろしいといふ思想が行はれて居る。日本の遲れたる思想に更に自我思想が絡はつたのである。自我とは何ぞや、自我とは自我其物に値あるに止らず、過去と未來とを結びつける意味に於て價値があるのである。從つて自我に條件付の自由はあるも絶對の自由はない。世上解せらるゝ思想が哲學上にも經濟上にも成立せざる迂腐の論たる事は極めて明瞭である、誰か物質界の支配を免れ得るか、何れか自然界の法則に左右せられざるものあらん、如何に自我の大なるものありとするも、是れに隨つて行かなくては發達はしないのである。今日の自我主義者は過去も未來もないものと思ふて居る、併し乍ら過去の文物制度



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

があつて今日の文明に生きて居るのである、祖先があつて彼自身があるのである。現在に於ても世の中は廻り持である。此會堂とても建てた者もあれば塗つた者もある、それを自分のみで生活し得るかの如く漫然自己擴張を稱へ自己充實を叫ばんとするは寧ろ悲劇ではないか、『身を捨てゝこそ浮ぶ瀬もあれ』といふのは無條件の眞理である。今日迄自分自らの利慾の爲めに偉くなつた者が何處にあるか、世の爲め人の爲め、身も魂も打捧げてやつて居る内自己が大きくなるのである。四疊半に轉つて小説を耽讀したり、面壁幾年哲學書に頭を惱まして時々本能の滿足に出かけるといふ其麼事で自我が擴充され、そんな事で自我が光を放つものではない。

## 二、我は我が子孫と共に生く

昔、アブラハムはエホバに濱の眞砂の樣に其兒孫を榮えしめむと云はれた。今後も尚幾多のヤコブも、イサクも、ソロモンも、ギデオンも起つて來なければならぬ。實に我々は未だ生れざる幾億といふ子孫と共に生きて居るのである。夏は最も誘惑の多い時である、電車に乘つても日比谷に行つても淺草に行つても、艶しい聲が諸君を挑發する、婀娜な姿が袖を引く、此時、諸君は如何なる信念を以て之に打勝たんとするか『我れ神と共にあり』といふ信仰を有つてゐる人は結構であるが、未だ信仰に入らざる者は何か掴む處がなくてはならぬ。玆に於て私は諸君に告ぐるのである、曰く『我は我が子孫と共にあり、祖先と共にあり』我れ一人生くるに非すと考へるのである。此自覺は容易に諸君の人格を擁護するに足るのである、乃木大將を崇拜する人あらば、其行く處に乃木大將が跟いて行く、東湖、山陽を崇拜すれば、東湖山陽が跟從する、若し諸君が生れざる子孫ありと考へるならば、諸君には幾億といふ人類が跟いて來る。諸君が健全なる精神を以て奮闘せられんか、世の文明を裨くる人となる。之に反して酒色に耽溺せんか諸君の子孫には必ず白痴が生れる、血脈が斷絶する、或は罪人が生れる、穀潰しが生れる、人類の進化を傷くる者が生れる。諸君は如斯にして人生の十字街頭に立つてゐる。右せんか左せんか、それは實に諸君の擇ぶまゝである。光明か暗黑か、正か邪か、それは實に諸君の辿るに任せてある。然るに世人の迂愚なる此火を見るより炳乎たる二つの道の選擇を誤り、若くば迷つて醒むる事ないのである。

世の中には何の爲に子のない人があるか、何の爲に婦人病があるか、放火、强竊盜、何れか酒精中毒と男女間の不健全に因せざるものがあるか。日本には衞生學の訓練がないために、男女間の性の問題は少しも徹底的に理解されて居ない。

## 三、聰明のない田舍者の顏

日本人には何の爲に聰明な顏がないか、今は大正博覽會で大分田舍の人が入り込んで居るが彼等の顏は何といふ聰明のない顏であらう。誤解してはいけない、私のいふのは美醜の意味ではない、聰慧といふ表白がないといふのである。田舍の人は皆肉の樂しみに耽つて居るからである。藝妓は

美しい、美しくとも肝心の聰明がない、何れもこれも間が拔けた顏をして居る。之れは何故であるか、心靈の修養をしないからだ。此頃は美容術といふものが流行る、令孃などが顏ばかり綺麗に磨いて、折角美しくなつてもお氣の毒な事には拔けて居る。美醜は仕方がないがインテリヂエンスが光り輝いてないならば駄目である。日本人の顏は實に振つて居ない。顏のみでなく、日本人位體格の惡い文明人種はない。何の爲めであるか、之れは個人の罪ばかりではない、先祖の爲めもある。人間は本氣になつて働くと壯健になる、日本人は本氣になつても働かうとしない、遊んで居て金が儲けたい國民である。これでは腦力も體力も發達する筈がない、どうも日本人の顏には聰明がないのみならず、生彩がない、元氣潑溂たる趣がない、國民的元氣がない。

## 四、廓清會は人種改良運動なり

我等の運動は日本に於ける人種改良である、廓清會は一面からユーゼニクッスの團體であるといふ事が出來る。海野幸德君などは人種改造學を一手販賣の樣に心得て居て、而も其立場から我等に反對を試むるから妙である、ユーゼニックスは何も海野君に限つた事はない、我々でも少しはやつて居る、研究して居るのである、而して其方面からも廓清會の運動を進むる必要を痛切に感ずるのである。實に我々の生れざる者に對する義務といふものは、忠君愛國と讓らざる道德である。茅原華山君は過去二千五百年の歷史は難有迷惑の歷史であるといふが私は左樣は考へない、二千五百年の過去の歷史も難有い。が將來の二億五千萬年の歷史は更に難有い。基督教徒は祖先を崇拜せざるものゝ樣に考へて居るものがある、併し乍らキリストは實に我等の精神的祖先ではないか、私は敢ていふ祖先を感謝しない基督教徒はそれは贋せ物である、と。聖書にもアブラハムの神、ヤコブの神、といふ風にあるのではないか、基督教は祖先を感謝する神でないといふものはそれは深刻に聖書を讀で居ない人の事である、祖先を愛しない者が何で人を愛する事が出來るか、我々は祖先の人に感謝し、現在の人に感謝し、生れざる者に感謝する。我々の觸るゝ生活は、過去現在未來の三つの大海原に於ける大自由の生活である、此の過去現在未來に生くる生活を名けて宗教生活といふ、斯かる意味の生活ならば誰にもなくてはならぬではないか、私はかゝる宗教を信ずる者であつて心に不平も不滿もない、暢び暢びして居る事が出來る。現在の人に失望しても將來の望みがある、だから暢氣である、未來に生きるのである。

天文學者は星の數が十六億あるといふ、人類の數も十六億である、我々は實に星一つ宛持つてゐる譯である。大隈伯も一つなら車夫馬丁も星一つである、實に公平である、或人は總理大臣となり或者は車夫となる。甚だ不公平のやうであるが實は永遠の過程の一瞬の假象たるに過ぎない。一度思ひを星の上に致せば富貴も權勢も貧乏も等しく有つ處は一個の星である、併し乍ら現在の缺陷も放抛すべきではない、我々は今其改善を叫んで居るものである。（廓清會大會にて）



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

社會

# 感化事業の趨勢

內務省神社局長 法學博士 井上友一

現在の日本の感化院數は五十四で、收容兒童の數は二千人である、而して之れに要する費用は二十八萬圓、新しい統計で三十萬圓實に微々たるものである。之れを最も感化制度の進歩した英國に比ぶれば、感化院が二百で四倍に當り、金は富の差が著しいから比較にならぬけれども、彼は五百五十萬圓で約十八倍である。然らば監獄に居るもの丶數はといふと、日本は六萬人で英國は却て少く僅に一萬人に過ぎない、感化院は英國が三萬で日本は僅に二千人、此數字だけで如何に英國が感化事業に力を注ぎ、成績を擧げて居るかが分る。

日本で感化院法を始めて議會に提出した時に、日本の監獄費が多いと花井博士が論ぜられたが、其時は警察監獄費が合計千四百萬圓であつた。今日は監獄費も警察費も上つて監獄費が六百萬圓、警察費が悉く刑事被告人の爲ではないが千七百萬圓、合せて二千二百萬圓となつて居る、花井氏の論ぜられた時より八百萬圓多くなつてゐるのである。而して今日感化事業に費す金は二十八萬圓であつて、多少之れ迄感化院で成功したと考へられる事は、改心して退院した人の數が割合に多い事である。これは監獄の再犯者と反對の成績である。總收容人員三千人中完全に改心して退院した者が千人、即ち三分の一といふ數が改悛して丁稚なり奉公なり農業なりやつて居るのは多少喜ぶ可き事であると思ふ。

○

現在五十四の感化院に就て所見を述ぶれば、第一設備の割合に收容人員が少い、建物などよすぎるのである。只今食堂で平沼檢事總長が、感化院の疊を見たら我々の內のよりも上等だつた、と驚いて居られた。そこで私は、併しそれは貴下の方にもある事です、奈良の監獄は正倉院よりも立派です、之れ等は學校などの通弊で、獨り感化院のみでないと云つて笑つたが、或感化院では一人前十五六圓かゝる、そんな事では困る、留岡君の家庭學校は古材木などで建てたので、左樣な事はない、萬事斯ういふ風にやつて貰ひたいと思ふ。

もう一つの缺點は、餘り完全にやらうとする弊である、私、の考では大概の處でよからうと思ふ、處がどうしても院長は氣張りたがるのである、けれどもそうなると講師の數も要る感化院は凡そ斯くあるべきと思ふ實例を述べて見やう。

第一、なるべく農業地をよく得させて農夫にするにある、官有地、御料地、其他の地を開墾させて貰ひたい。今私の說かんとするのは感化院ではないが、農業で成功したのは岡山

孤兒院である。收容兒童は不良少年ではないが石井君のやり方は貧民子弟に最も適切である。石井君は日向の高鍋在の茶臼原に、內務省から助成金千圓を二回下賜せられて、助成林二十五町畑地三百町を開墾し、それでどれ丈養ふてゐるかといふと約二百人で、岡山の方は閉鎖した、たゞ取次をする丈になつてゐる。どの位の經費で出來るかといふと馬鈴薯や、芋などを作つてそれを食ふので一ケ月三圓で上る。同君は孤兒院の男女で夫婦になる事を獎勵して居る、現在は二十戶の夫婦が出來た、そして此農家は報恩の爲め二孤兒を引受けなければならぬ事になつてゐる、百戶農家が出來ると二百人助かるのである。石井君は敎育は三代敎育で宜敷いといふてゐる。始めは農業に從事して極簡單の敎育で宜敷い、二代目になつて小學敎育を完全にする、第三代目に於て高等敎育を受けさせるのだといふてゐる、これは極めて適切である。

○

も一つ近年やつてゐる事で大に廣まればいゝと思ふのは、感化院其他の子供を海員に養成する事である。現に海員掖濟會に內務省から紹介してやつたが、中橋君の話に大阪に電車が出來ると大阪商船の人が無くなるさうである、今日は海員の待遇は一番缺けてゐる。そこで掖濟會では先づ半ケ年は實地練習で四ケ月間橫濱で練習して海員に取る。其經費は悉く海員掖濟會で出すといふ事である、海員の志望者があるなら此方面も望む。併し大體に於てはやはり農業が適切だ。

○

終りに一言したいのは中學の半途退學者の增加である。之れが常に不良少年として最も困る階級であつて、現に半途退學者は年に一萬五千人、少くとも在學者の三分の一、多くて半分に達せんとする實況である。農村に於て一番厄介なのは何かといふと此半途退學者であるといふて居た、如何に之れをすべきかといふ事は實に問題である。昨年冬添田博士がカリホルニヤに於ては半途退學者が支那人と交り、賭奕を打つたり、其他惡い事をやつて居る、之が一番困り者であると云はれた、排日問題は內地の罪で、粗末な人間を送り出すからである。

一昨日も栃木縣の警察で一番困るの中學の半途退學者である。同地ではこれが白骨團といふものを組織し、氣脈を通じて色々の妨害をして困るといふ事であつた。華嚴の瀧は近年投身者が減つた、現在平均四十名で、昨年或女中二人が華嚴のすぐ下の白雲の瀧に投じてから、近頃華嚴より白雲の方が流行り出した。福岡縣から態々旅費を費つてやつて來た者もある。それがやはり半途退學者であつた。京都に行つた時も眞面目な生活を厭ふて碌な事はしないとこぼして居つた。

帝國農會で困るのは此半途退學者問題と今一つ大きいのは農家の減る事である。小作人は皆都會に出ては車掌などになる。現在農家全體は五百萬戶で、五町歩以上の大地主は最近九萬戶增した、土地の兼併の爲め中地主（五町歩から一町歩位迄の）は一萬戶減つた。そして一町歩以下の小作人は約四萬戶增した。如斯地面は減る、其上借金は殖へる、農家に居つても詰らず都會に出るのである。（感化救濟事業懇談會文責記者）

寄書

# 人道の罅隙

服部純雄

殊更に複雑至難を極めつゝある『藝妓問題』と『廢娼問題』とを、若くして雄々しき『日本青年』の純潔豪健なる眞魂に因りて解決せしめよ。強くして鋭く、潔くして純精なき『日本青年』の懺悔の涙に潤ひし靈魂の奥殿に訴へて、此大問題を廓清せしめよ。勿論衛生上より法律上より道徳上より社會上より、此陰欝なる問題を解決せんとして只管絶叫公唱する人は、他に其人もやありぬべし。さり乍ら際涯なく見ゆる該問題をして根本的に徹底的に絶對的に永久的に解決せしめん爲めには智者學者此世の論者は如何に力説するにもせよ、先づ若き人々の心靈に鍛はれし放膽無遠慮なる獅子吼と、深くして濃やかなる沈思とに待たざる可らず。

青年諸君。

、清浄無垢なる其身を堕して藝娼妓と變じ、黄金の鎖に縛られて黝黒き一塊の腐肉と化するまでには、誰人の胸底を叩くも深烈悲惨なる一篇の哀史を綴るを得べし。

勿論自己の招きし罪故に、自己の求めし淫奔故に、『生ける屍』を浮ぶ瀬のなき魔の淵に沈めて、悶搔き荒みつ惨憺なる最後を急ぐもあるべし。或は又我儕の苦衷を仇にて返し、腐れし床にあだめく喘ぎを續けつゝも、更に良心の自覺なく『飲めよ歌へよ我儕明日死ぬべきなり』と、酒に爛れ、色に痺れ毒血の循環に懊悩し、あはれ空虚の月日を過すもあるべし。

さはさり乍ら我儕は飽くまで其罪其無智を憎むと雖、只管に其人を熱愛せざるを得ず。

殊に貧の苦痛に堪へかねし者、舊來の陋習に迷ひし者、惡虐蛇の如き無頼の毒手に誘はれし者、更に淺き人と人との怪しき義理に絡まれし者にして、斯かる魔窟に其身を沈め、侘しき呼吸を辛くも持續する弱き女性に對しては、満腔の愛心を披瀝せざるを得ず。

殊に其良心が至高き靈能の努力に因りて覺醒し、日々の周圍の腐敗と臭穢とに驚ろくも、慰安の道とては更になく、自由を求むるも是を得ず、平安を探るも是を得ず、死を希ふも能はずして、空しく悲哀慟哭し、煩れる人生の果敢なき行路を危く辿れる弱き女性に對しては、我儕若き人々は殊更に雄大清浄なる保護者たるべき大責任と大使命とを、確乎として自覺すべきに非ずや。

青年諸君。

以下に綴りし告白は、現在の宗教家教育家博學者道學者淑女貴婦人等より蛇蝎視せらるゝ片田舎の遣瀬なき『一藝妓』が恐怖の昂進に壓迫せられし柔弱き魂魄の呻唸なる事を、魂に深く記憶せられん事を。

* * * * * *

妾は不幸な者でした。生れは浪の荒い銚子の磯です。十歳になるまで此土地に住みました。夫から三島の落山樓に中玉として出たのです。奥行の長い家で○○の名高い玲瓏しい冷たい水が屋形の直ぐ側をさやさやと流れてゐました。お政さんといふ正直な年増なおばさんが色々と世話して呉ました。自分が不幸な人でしたから他人の不幸もよくよく解つたものと思へます。妾の大好きなお母さんは○○で死にました。肺病でしたの……妾は

お母さんの食べ殘した梨實を喜んで食べましたわ。

妾の姉さん達は非常に肺病を怖れてゐましたのよ。お座敷が濟むとはお母さんの背中を撫でゝ漸く暮してゐました。

ですがお母さんは到頭死なれました。

妾は悲しい頼りない想に身悶えしてよ。妾は決して其時の事を忘れないわ。

妾のお父さんは東京にゐるのですが何だかお父さんの樣な氣がしないのです。何處にか眞實のお父さんが妾を待つてゐてくれる樣な氣がするのです。お母さんの病氣の時には此事を是非聞きたいと思ひましたがいやな顏をなされたから其儘やめました。

時々お父さんお父さんと呼んで見たくなります。

妾は藝者は藝を賣る者と思ひました。

ですから一生懸命三味線のお稽古を續けました。御覽なさい此手の澤山の疵痕はみんな其時の撥で叩かれたのよ。

處が藝者は藝ばかり賣る者でない事を此憎らしい社會から敎へられましたの。

妾の美しい無垢な肉體は到頭穢されました。恐ろしい人鬼の爲にいやらしい人鬼の爲にです。アヽ嫌です。嫌です。嫌です。

妾は其時の事を想ふと身震ひが出ます。口惜しいです口惜しいです。妾は其罪を憎しいと思ひます。

弱い處女は社會の壓迫に敗けました。ですが妾は其時以來も決して淫らな不見轉はしませんでした。此人は妾の唯一人の旦那でした。妾は盲人になつておたからと妾の肉體とを交換したのでした。

妾は時々二日でも三日でも續けて悲しくなりました。アノー歇私的里とでもいふのでしょう。二日でも三日でも續けて悲しくなりました。泣きました。泣きました。

其後色々の事情に纏はれて止むなく此〇〇の遠田屋に鞍替して來たのです其時は妾の十八の時でした。ソレ以來四年間どうなりかうなり肉體を穢されずに進んで來ました。

昨年三月の大火には一切の衣服は燒けました。玉代は全く僅少でした。肉を賣る多くの朋輩は美しい衣服を着ます。立派な旦那を持ちます。ダイヤの指輪を塡めます。華やかな遠出をします。夫に反して妾の負債はすゝみます。朋輩からは小生意氣だと冷笑されます。尾形の嚴しい壓迫はあります、諸々方々から眞綿で首を締められます。

妾は瘠せました。疲れました。妾は絕對絕命でした何度ア、死にたいナ死にたいナと思ふた事でせう。ですが貴方妾は戰つて來たのです。到頭勝つて此處まで來たのでした。

今時の殿方は位が高いか黄金があればある程淫らで穢いです。

妾に金錢を積んで下さる。妾に色々の親切をして下さる。ソレは肉の報酬を得たい爲なのです。ソレは妾の肉を捧げよと遠廻しに前兆せる爲なのです。勿論今の藝者にも藝者らしい者は一人もありません。殿方の招きを嬉し相に待つてゐるのですもの………。なんですか………アノー觸れなば靡かむ風情とでもいふのでしょうよ。

ですが弱い女を無暗に虐待して此樣に腐らしたのは殿方の罪です。罪です。何といふさもしい罪でしょうか。

藝者が藝を賣り乍ら營業の出來ない今の制度を妾は眞實に眞實に咒ひたくなるのです。

妾は幾度か死にたくなりました。コンナ憂き世に何の未練もありませんでした。

唯々周圍の迷惑を思ふては止めてゐました。云々よ

* * * * * *

何たる悲慘の聲に非ずや。陰鬱の聲に非ずや。涙の聲に非ずや。戰の聲に非ずや。眞劍の聲に非ずや。然も事實の聲に非ずや。

青年諸君。

怖ろしき憂鬱なる運命の苛責の下に、自己の貞操を生命を賭して擁護せる此女の聲を、果して何と聞かるゝ哉。憐れなる哉幽暗悲壯を極めし人生の捨子よ。

彼女も亦我儕の同胞にして骨肉ならずや。

彼女も亦我儕若き人々の妹にして且つ姉には非ずや。

誠に實に我儕にとりて不可抗力の如く見ゆる情慾の魅力も、此公明正大にして爛熟せる『敬神愛人』の威力に對しては餘りに力なきを感ずる也。

然るを淫魔の跋扈に靈殿を濫用せしめて致命的嘔吐に不斷の精力を消耗するは餘りに跪き若人ならずや。

さるにつけても噫々禍ひなる哉所謂現代の紳士等よ。

二千年の昔ユダの荒野の叫びし義人の聲を記憶せりや。『爾曹は杯と盤の外を潔して內には貪欲と淫欲とを充せり』『爾曹は白く塗たる墓に似たり外は美しく見ゆれども內は骸骨と諸の汚穢にて充つ』と。

我儕若き人々は貸座敷業者、女將、遊女藝妓等を容赦なく、攻擊排斥するに先だち、殊更に日本現代の所謂紳士諸君に一大猛省を希はざるを得ず。若き大聲を發して只管に靈魂の洗滌を希願せざるを得ず。況んや黃金と權勢の威力を弄して容色好き婦女子を玩弄拷問せんとする紳士諸君に對しては、罪惡の巢窩を一掃すべき懲罰の笞鞭を用意せざるを得ず。

青年諸君。

今や思想の爆彈を準備して霹靂を飛ばすの時來れり。天父の法廷に訴訟して勝利を獲得すべきの時來れり。

聞かずや。恐ろしく暗黑なる墓穴の裡より壓迫と脅嚇とに流轉せられし何萬の姉妹等が、遊蕩の港灣に憧憬る呻吟の聲を耳にせずや。

誠に實に大日本は大廓淸を要す。新時代は純青年の大自覺を待てり。

青年諸君。

我儕は政治家たり敎育家たり實業家たり宗敎家たるに先だち、先づ人生の勝利者たる事を要求せらる。

我等の身はキリストの肢なるを知らざるか。我キリストの肢を娼妓の肢として可らんや、可らざる也。（哥林前六―十五）

我儕は我儕自身の生命の爲に、限りなき人類の大生命の爲に、將しく眞男子の大覺醒を要求せらる。『我に觸るゝ勿れ』（約二〇―十七）とは誠に實に勇しき青年の若き音響にあらざるか。

我儕をして弱者の貞操を擁護せしめよ。我儕をして醜惡無慘なる牢獄より等彼の重き錨をあげしめよ。我儕をして人生の泥濘より彼等を脫せしめて安らけき久遠の淨土を識らしめよ、我儕をして彼等の城となり楯となりて此愛すべき遊星上に嚴立せしめよ。

さすれば大日本の各處より悲慘と憂鬱と惑亂と廢毀とに箝制されし幾萬の姉妹等は戰慄しつゝも、尙滿腔の感淚を我儕の心胸に灑ぐなるべし。

青年諸君。

時代は醒めんとしつゝあり時代は人道の罅隙を許さず。至嚴肅なる青年の弱者の悲運を運換せしむべき若き活動を待ちつゝあり。

我まことに爾曹に告ん此最微者の一人に行はざるは、即ち我に行はざりし也（馬太廿五―四五）と。

我儕をして若き叫びを再記せしめよ。我儕をして眞男子の威力を緊張し生命の彈力を興奮せしめて希くば弱き反抗に疲れし幾萬の異性を必至と擁護なさしめよと。（終了）

●鐵道旅行案內の發行

本書は鐵道旅行者、探勝遊覽者の爲めに鐵道院が發行したもので、四六版二百八十四頁、附錄九十頁の冊子で、要所々々には三十三葉の地圖を附し、精巧なる寫眞版百五十四頁によりて名勝舊蹟數百を紹介し、官線私線すべて交通機關は之れを擧げ、名勝地に至る自働車馬車人力車駕籠船等の賃金をも記載し、行文も驥原の勝を敍するには紅葉の文を以てする等氣が利きて、卷頭の索引は都市、名邑、神社、佛閣、名所、舊蹟、公園、避暑、避寒地等に分類してあるから至極便利で、滿洲朝鮮臺灣樺太も附錄として記してある、要するに旅行者遊覽者の座右に具ふべき好者である。（日本橋博文館發賣）



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

雜纂

# 社會の暗黑面を探險漂白した女の大膽なる告白（二）

里子

前回に於て厚顔しくも私は、自分が過去の恐しき暗黑面に於ける生活狀態を暴露しました。今また拙き筆に綴り續けて人生の一面を展開して見たいと思ひます

辛くにして心身の冷靜と沈著との持續を保ち得るやうになつた私は、更に進んで何物をか見出し、又は聞き付ける事を常に努めたのであつた。堤の梢は一樣に淡き綠を刷いて、麗美人草やダーリアの花が彩をなす頃、あるはまた川風涼しきたそがれ、さては月影落ちた秋の小夜中見る事、聞く事すべて魔界の稱の僞りならぬを深く思はしめたのでした。

婦女子の身を以て、嬌冶けた俳優や講談師や、義太夫浪花節語りより、力士活動寫眞の辯士、或は琵琶師などを伴ひ來つて不義の淫樂に耽るを見るが如きは、些かの珍しさもない日常の事でした。

或る土曜日の夕暮であつた、客は六人連れで其内女は十三四歲の可愛らしい女學生が一人と、三人の十六七歲位かと思はれるやはり女學校の生徒らしい娘達と二人の若き中學生らしき男と共に、酒を命じ料理を取りて最後に汚名の譏を免るゝ事の出來ない家族風呂に、其の何れかの娘が這入つたのを見たのでした。料理屋の女中として、總ての人々の行動を見慣れた、また聞き慣れた他の女中達がそれを見て皆云ひ合はしたやうに不良學生愚連隊とか申して肩をひそめたのでした

又田舍から出て來たばかりの樣な娘を連れて來て、矢張り家族風呂に浴する人達を、幾度が數知れぬ程見たり聞いたりしたのでした。いつも其話をする時には世馴れた女中達でも、其の正直さうな素朴の田舍娘の爲めに同情するのでした。

下町風の娘は申すも更なり、最も驚きの眼を見張らざるを得なかつたのは何處から見ても立派な令孃、甚しきは氣高き令夫人が、落付かない態度で、殿方と共に若々しい遊びに時を移すなどが一日の來客中に幾人かあつたことでありました

○一度足を斯うした花柳の巷に踏み入れてよりは、殆んど他の想像し得ざる迄の官能の衝動、性の興奮がもう遺憾なく暴露せられ、肉の香に疲れて了うのでした初めの中は來客の婦人の爲めに、また同僚の女中の爲めに隨分心配したのですが自分に左樣した危險が廻つて來やうとは少しも豫想いたしませんでした。何故なれば私は非常に醜い容貌であつたから、斷じて危險はないと信じ、且つ安んじて居る事が出來ましたが、やはり危險と汚辱との言葉を人々から敢てせられたるは再三再四に止りませんでした。或は甘言を以て、脅迫を以て陷れやうとするのでありました。けれども如何に大切な客でありましても、其態度によつては淪落な境涯に沈み居る身にも決して歩を譲ることは出來ませんでした。或時の如きは兇刄を振つて迫まられた事すらありました。私は戲談だと思つてゐましたら血走つた眼光の其恐しさ。凄い面色で向はれた時は逃げもならず、詮方なしに閃く刄先を見守り乍ら、態と從容と、冷かに嘲

りの笑を湛えて其男に對座しましたら、相手の男は初めの凄しき擬勢も何處へやら、譯もなく叩頭謝罪して逃ぐるやうに歸つて了ひました。其時に二人の友達が何うなる事かと竊に窺つて居たさうですが其時の顔が實に可笑しかつたと云つては腹を抱へて笑ふのでしたが、私は一生懸命で少しも解りませんでした。

○斯うして多くの月日を送りましたが、男が若い女達と一緒に來て、最後の行動は常に淫事に歸する事は百人が百人にて美しく綺麗に遊んで歸るは稀有の事であるといふ結論に達しました、そして或人は暗黑面に於ける總ての罪惡は、主に婦人が醸すやうに申して居りますが、また現に女子が怪腕を振つて益々其淵瀨を深くしつゝあるのですが、飜つて其魔婦の最初に立歸つて見れば、彼等も亦昔は純潔を誇つた處女であつて誘惑に抵抗する意志の弱かつた罪はありませうけれど、恐く男性の爲めに玆に至つたのでありまして、罪惡の卵の一として男に生みつけられざるはありません事を知りました

そして其の男性は自分で墨を染けて置き乍ら、黑いと云つて嘲つて居ます。總ての裏面に多く立入つて見ますと、眞に人の本性が解されぬやうに思はれるので居ます。婦人の道德を眞面目に口に叫んで居る其人が、自分勝手な、自分の都合のよい理窟をつけて奥深く探れば随分如何はしい事を發見するのです。人に誠實を語り、神聖を誨へ虛僞は法を破るものなりと說く其人が、他人の人格を蹂躙し、自己の人格を傷け、譎詐を破倫とを敢てするのです。風を捕ふる様な空しい思索は何人にもなし得られやう、けれどもそれは空想にしか過ぎません。私には自己の思索を現實して活動する事の出來る實踐的、現實的思索でなければならないやうに考へられます。言行が一致しなければ即ち虛僞であります。

○私が二年有半の生活は誠に醜惡な、そして日常の行爲は心にを豫想しない言葉を以て人に接し、或は心に戰き慄ふのを無理に押しつけて我から淪落の淵に沈み、虛僞の言行を以て處世の要訣妙諦となし、危き世路を恐怖や苦慮や悲哀や堪へ難き悶の火を抱き乍ら、賴りもなく、望みもなき、暗黑なる懷疑の石に蹉跌しつゝ安全に憩ふ卅分の暇すらなく、卑近の一些事にも心はいたく動き、美は醜に、醜は更に醜に、喜びも樂みもない生活でしたが、幸に沈思默考すれば鞏固なる自責の思のみぞ湧き出るのでした。

幸に私は九年前十四歳の春にマクドナルド恩師により神を知り、今又新に二十三歳の春更けし今日（大正三年四月十八日）に於て、再び主は恩師を通して救つて下すつたのでございます。『神は汝を守護る者なり、神は汝の右の手をおほふ蔭なり』（詩篇一二一の五）『我が魂は乳を斷ちし嬰兒の如くわれに恃れり』（詩篇一三一の二）

自己の現在將來皆總て神の御手に委れ自己の一切を神の前に告白して而して其命令に從ふ事を喜び、又樂しく其安全なる懷疑の念に驅られて一日一時の安住を得ること が出來ざりし近き過去の生活を今思ふだに哀痛の思ひを深うせしめられるのであります。『汝の仁慈を我が安慰となし給へ』（詩篇一一九、七六）とあしたの祈に夕の祈りに絶へず心に叫び求めて居るのでござゐます。而して又常に自らの復活の日を喜び記念すると共に、前後九ヶ年の永き年月我が敬愛する恩師マクドナルド先生が主によりて絶へず御祈り下されし事を深く〱感謝いたして居ります、主の御祝福貴會と恩師の上にあらん事を。

最穩健なる進步思想により青年女子の指導に任ず
創刊明治三十七年　一部七錢一年七十錢
女子青年界
十一卷七號（七月一日發行）
東京市牛込區田町三ノ一二
女子青年會發行



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 大正二年度の事業

理事　益富政助

大正二年度の經過を、謹んで先づ第一に報告すべきは、本會の爲めに常に盡瘁せられて居つた二人の評議員を失つた事である。一人は島貫兵太夫氏にして、一人は服部綾雄氏であつて、島貫氏は二年九月六日肺結核を以て鎌倉に逝き、服部氏は三年三月急性脳膜炎にて米國の客舍に眠られたのである。我々は兩氏が本會に盡し、大なる同情と援助とを與へられて居たに對し、茲に深厚なる感謝を捧ぐると共に、在天の英靈の上に神の御祝福裕ならん事を祈るものである。

該年度に於ける本會事業の主なるものは先づ第一に雜誌と公開演説會である。雜誌は毎月三千五六百部、時に五千部を印刷し大正二年度の總計約四萬部である。序に附言して置きたいのは、本會の々員は他の雜誌を講讀すると異り、本誌を讀み終らば多く知人に送つて居る事である。ゆへに一ケ年四萬餘の雜誌は、事實に於ては其幾倍の働きをなして居ると思ふ。

尙之は二年度の事業に屬するのではないが、此四月より實行して居るのは「廓清トラクト」の發行である。本部は毎月之れを八千部づゝ作つて居る、而して何人にも進呈するのである。本會の主義主張を社會に普及する目的を以て此印刷物を要せらるゝ向には、何程にても遠慮なく御請求相成りたい。

次に報告すべきは演説會である、本年度に於ける開會の數は十六回であつた。以下順を逐うて説明すれば、

（一）五月十六日、名古屋に於て開いた。此集會は特筆すべき價値がある、といふのは名古屋は殆んど藝娼妓の本場として知られ、隨分風儀の惡い處であつて娘でも生るれば非常に喜んでお祝をするといふ有樣である。それは女子大學に入れやうといふ爲では勿論ない、藝娼妓にして纒つた金を得る事が出來るからである。然るにさうした土地柄にも拘らず松井愛知縣知事始め、本會の運動を大なる同情を以て迎へた。第一演説會の會場に就ても縣會議事堂を貸す事になつて居つたが生憎時日が徴兵檢査と衝突した爲め實行が出來なかつたが、尙併し商品陳列館を開いて會場に充てゝ呉れた程であつた。いふ迄もなく本館は縣の建物である。もう一つ記して置きたいのは有名な旭廓は此陳列館と目睫の間にあつて、恐らく樣々な反抗運動を試み一騒ぎは免れざる事と豫期して居つた處、聽衆は水を打つたやうに靜に傾聽して一人の妨害する者もなかつた。聽衆の中には隨分貸座敷關係者らしい顏も澤山に見へたけれども、全く口を緘して居たのは、之れを二十年前我等の尊敬する外國の友人モルフィー氏が、一人の娼妓を救はんとして遊廓側の逆襲に逢ひ、洋服はズタ〳〵に切られ顏から手から血だらけになつて逃げ歸つて家に飛び込んだ姿を見て、モルフィー夫人が氣絶せられた時などを思ひ合はされ、時勢の趨移轉た今昔の感に堪へないものがある。（辯士四名、會衆七百名）

（二）五月三十一日、本郷中央會堂に開いた、當日は前年度總會の日で、森村翁が



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

本會の顧問たる事を諾され始めて本會の演壇に立たれた日で、頗る盛會であつた（辯士八名、會衆六百名）

（三―五）六月中旬より七月にかけて余は朝鮮滿洲を旅行し、京城、奉天、大連の三ヶ所で演說會を開いた。何處も可なり盛況であつた。（辯士六名、會衆八百名）

（六）七月七日、富山縣の石動町に開いた會同地方には從來絕無の運動の事とて、會衆は少かつたが此運動が一大警鐘となつて地方民の耳朶を刺激した事は深刻なるものがあつた。

（七）九月二十四日、芝統一教會に於て第一回藝妓問題大演說會を開いた、藝妓問題の如きは從來世人に何等の考慮をも與ふる事のなかつた問題であつて、之れに對する演說會の如きは空前の事に屬し世間の耳目をひいたのは、豫期以上の成功である。殊に特筆して感謝の意を表して置きたいのは東京日々新聞が非常の同情を以て我徒の主張を十數日に亙り連載して吳れた一事で、此れによつて如何に廣く宣傳せられたか推するに難くない。

（八）十一月三日、大阪に於て廓淸會支部發會二週年記念大演說會を午前午後の二回開く。午前に於ては本會顧問大隈伯爵出演せられ「一夫一婦は天地の公道」といふ題下に滔々一時間餘の大演說をせられた。これも昨年度に於ける本會の働きの記憶すべき一つであつたと思ふ。一體斯ういふ樣な演題の下に演說し得る者歷代の內閣總理大臣中に他に見出し得るであらうか。我々は斯の如き高き人格を有せらるる伯を本會の顧問として戴いて居る事を名譽とする。（辯士四人、會衆四百人）

（九）同夜、同じく演說會を開く、（辯士五人、會衆四百人）

（十）十二月十三日、青年會館に第二回藝妓問題大演說會を開く。此時始めて從來の試みた事のない入場料を會員以外の來會者に徵して見た、そして二十圓餘りの收入を得た。（但五錢宛）此二回の藝妓問題演說會によつて、今迄考へた事すらない國民に、其結論が必ずしも吾人と同一でないにしても、重大なる社會問題として提供し、世人の覺醒を或程度迄促し得たことは、風俗史中に沒すべからざる功績である（辯士七名、會衆七百名）

（十一）同月、富山縣石動町に於て開く、（辯士二名、會衆百名）

（十二）大正三年一月二十四日、群馬縣に廢娼二十年記念大會が開かれた。抑々群馬縣は我國唯一の廢娼縣である、我々の運動は全國の各府縣をして此群馬縣の範に則らしめん事である。如斯廢娼の尊き理想が二十年の昔に實現せられたといふ事は、我國內の廢娼に光彩を放つものたるに止まらず、始めて群馬縣會が廢娼を議決したのは明治十五年であるから、まだ諾威も丁抹もやつて居ない、略英國と同じ頃で世界に卒先したる名譽を荷ふて居る。殊に縣民は廢娼斷行後も當に猛烈なる設置運動と戰つたのであつて、我群馬支部長德江亥之助氏の如きは、嘗て市會議長たりし時、公娼設置案が多數を以て同市會を通過するや、如斯醜陋なる案を余の名を以て建議するに堪へずとして、憤然議長の榮職を弊履の如く抛つて亦遂鹿場裡に立たないといふ。こは唯其一例に過ぎざるも、斯かる幾多の犧牲を拂つて此光榮ある記念式を行ふに至つたので、特に本部よりは安部副會長、油谷、松宮兩理事、及び當年縣會議長として縣の輿論を指導し、遂に廢娼の功業を成就せしめたる、現本會評議員湯淺治郎氏も出席せられ、來會者は縣下の主立つ



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

た者許りであつた。(辯士五名、聽衆三百人)

(十三)三月四日、婦人矯風會と共に神戸に於て開く、(辯士五名、會衆四百名)

(十四)同月九日、大阪に於て開く、(辯士六名、會衆三百名)

(十五＝十六)同月、群馬縣安中町及び原市町の二ケ所に於て開く、(辯士四名、會衆四百名)

　其他の運動としては本年三月三十一日大正博覽會に藝妓の演藝を公開するに對し之が禁止運動を試た事である。其請願書は載せて四月號にあるから之を省くが署名者は島田會長始め、加藤弘之男や村上專精博士等の名士三十名に及んだけれども、當事者の頑迷不靈な頭を動す事は出來なかつた。

　因に附言したいのは、現内閣成立以來本會の運動は一進展を來し、余は屢大隈伯を訪ふて直接此問題を交渉した。本年四月は、余及び救世軍の山室大佐、婦人矯風會の矢島楫子氏、慈愛館のマコーレー夫人など〻同じ題目に就て伯に願ふ處があつて、いつも好意を以て迎へられた。近々の内に内務省に於て本會の幹部と内務省の當局者との間に懇談會を開く筈になつて居る。多分次號に於て會員諸君の滿足せらる〻報道を齎らし得んか。

　尚本會京都支部が立つて大運動を起した事は前々號の誌上に簡單に記しておいたが、余は同地支部長原田助氏と共に大隈内務大臣を訪問し、京都の矯風問題に就き所見を述べた處、恰も大臣室に大森京都府知事が來られ、伯から同氏に廓清運動を助くる樣に語られたので、以來同地の運動は頗るよく進行しつ〻ある。

　今一つ書き洩すべからざるは二年四月九日艶衣事件の決定である。之は品川の一娼妓艶衣なるものが廢業の目的を以て逃亡し、一ケ月を經て救世軍に賴り廢業の手續をなしたるに對し、品川警察署は逃亡の理由を以て一昨年十二月改正の娼妓取締規則によつて二十日の拘留に處した。此事は改正規則劈頭の事件で、一艶衣の問題たるに止まらず、五萬の娼妓の安危に關する問題とも解し得べきを以て本會は理事西村寺田兩辯護士の義俠によつて一月以來係爭し、區裁判所より、地方裁判所に、更に控訴院迄持つて行つて判決例を殘したいと奮闘したが、不幸にして無罪と迄はならなかつたけれども、二十日の拘留は僅に罰金二圓となり、酷烈なる品川署を反省せしめたるのみならず、各署とも斯かる過酷なる取扱をなす事がなくなつたのは、特筆の價値がある。

　最後に記したいのは、基督教會同盟が五月號(廓清時言中)所載の如き決議をしたる事にて、吾人は全國の教會と提携して此社會運動を進めて行き得る樣になつた神の惠みを感謝して擱筆する。

さけきらいになる藥
禁酒丸
身體無害
有効保證
●定價 半週分六十錢●貳週分壹圓九十錢
一週分壹圓●三週分二圓八十錢
からだに少しもがいなくどんな酒●煙草のみでもきらいになり益々壯健になること保障早くためして御らんなさい
禁煙液
たばこきらいになる藥
●定價五十錢●壹圓●壹圓五十錢●
●郵劵貳錢送附あれ兩藥の説明書送る●
本舖 大阪靭南通二丁目 森田商店
●御送金は振替口座大阪貳二壹二六番へ

# 大正二年度總會 創立三週年記念 大會記

七月四日、京橋區銀座會館に於て廓清會總會を、三週年記念大會と共に開く。

### △報告會

午後三時、島田會長議長席に就き、開會を宣す。益富理事は別項の如き事業報告をなし、會計報告に移り、それより大阪支部を代表して林歌子氏、群馬支部は松宮彌平氏、下館支部は三島德藏氏よりそれ〴〵報告あり。ついで

### △役員選擧

を行ひ、全會一致を以て島田三郎氏會長に重任せられ、栗屋榮子氏の動議により役員は會長の推薦に一任し、會長は其氏名を擧げたるが理事は總て重任したるも、評議員は其承諾を求むる必要あるより、次號に發表せん。斯くて

### △協議會

に入り、

一、現内閣に對して取るべき方策如何、

右に對し安部磯雄氏は、數日前内務大臣を訪ふて希望を述べたるに、伯は大に贊同し、却つて滔々廓清運動の必要を說かれ、煙に捲かれたる有様なりきとて、更に伯の歸京後、本會役員と内務當局者と、充分意見を交換し、我等の主張の實行を期する筈になり居れるが故に、本項は此の會見の結果によりて決定し度しと述べ、コーツ博士及林歌子兩氏より、改良漸進策を非とし、根本的解決を望み、廢娼の斷行をなすは今日を措いて又何れの日かあらんと述べ、安部氏は之を諒し、其の程度はすべて現閣の意嚮如何による事なれば、交涉委員に一任せられたしと述べ、左の交涉委員を擧ぐ。

島田三郞氏、安部磯雄氏、山室軍平氏

内ケ崎作三郞氏、益富政助氏。

二、本年度に於ける廓清運動の計劃如何

右につき益富氏は本年度に於ては全國に目覺しき運動を起し、充分輿論の後援を作り、當局者をして吾徒の主張を容れしむるを要す、故に、

（一）全國に涉つて遊說する事。

（二）各府縣當局者を訪ひ意見を述ぶる事。

（三）右に對する資金を募集する事。

を提議し、松宮彌平氏は、

（四）今夏輕井澤に日本人側と外國人側と二回大演說會を開き、島田會長出演せらるゝ事にし度しと提議し。外人に向つて贊同を求むるは國民の耻辱なるが如きも、遊廓の存在は疾くに彼等の熟知し慨歎しつゝある所なるが故に、寧ろ吾徒の廢娼運動あるを知らしむるは其耻辱を輕減せしむるものといふべく、彼等の勢力を借るは遺憾なりとするも、目下の日本の實狀は萬已むを得ず、彼等は喜んで本會の贊助員たる可きが故に、以て多少の運動資金を得可しとて、松宮氏其衝に當る事に決定し、林歌子女史は、

（五）森村、澁澤兩氏の發起に係る自助團は本會の目的に一致點を有するが故に



Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

豐富なる其餘力の援助を求めたしと望み、安部磯雄氏交涉の任に當る事となり油谷治郎七氏は

（六）英國などにては、男女間に不潔な行爲をなすまじといふ丈にて一の團體があり、在外醜業婦の取締に就てだけにて又一の團體があり、密娼婦の取締だけにて一の團體があり、花柳病の恐るべきを說く丈にて一の團體がある。我が廓清會も本年度に於ては少くとも全國に各一個の支部を有する樣にしたし、それには各敎會と提携せば決して難事にあらずと說き、安部磯雄氏は、

（七）全國諸敎會に檄して、各敎會は廢業娼妓其他賴べなき憫れむべき婦人達の身上相談並びに其保護所たらしむる事にしたし、就ては自由廢業案內號を發刊して彼等を擁護し一面此制度顚覆の原因たらしめんと述べ、石田友治氏は、

（八）東京市內に於ては、每月一回各敎會を巡回して廓清演說會を開く事にしては如何と說き、何れも可決。其方針を以て會務の擴張を圖る事とし、五時半

### △懇談會

を別室に開く。晩餐を共にし雜誌の批評を話題として和氣藹々の裡に六時半

### △大演說會

を開く。安部磯雄氏開會の辭を述べ、第一席益富政助氏は『廓清時言』と題し最近に起れる諸方面の問題を捕へて快辯をふるひ、次で林歌子女史は破るゝが如き拍手に迎へられて『廓清會の三週年を祝す』と題し、其誠實に聽衆は襟を正して感動し、矢島楫子女史は、吉原大火當時尾崎市長に運動したる事より、今日と時運に大差ある事を述べて奮起を促し、喝采の裡に降壇。內ケ崎作三郎氏は『生れざる者に對する義務』と題し、別項の如き大演說をなし、山室軍平氏は『一百人の廢業娼妓』と題し、曩に本誌に執筆せられたる『廢業娼妓二十五人』の續篇とも見るべき、一層多くの材料によりて研究せられたる結果を演說し、例の熱辯を以て花魁道中の前に立はだかり、大聲叱呼其無恥非行を二聲でも三聲でも叫んで大勢に踏殺され度かつた。さうしたら少しは世の中の者も眼が醒めるだらうに、私はそれをする事が出來ない位地にあるのは殘念だと血涙を啜つて悲憤する遏り、熱烈鬼神を泣かしめ『あゝもう私は聲が出ない』と投出す樣に血を吐く樣な聲で云はれた時は、婦人席などは恐く啜泣の聲がした。

果然氏のアッピールによつて即時入會を申込みたる者八十八名（內三名は贊助員）に達した上、會果てゝ四十餘りの男は山室氏の膝下に跪いて、悔悟の涙潸然として、山室氏の演題を書したる紙を記念の爲に貰ひたし、之れを以つて自分の人格の守り神にしたしと懇請し、山室氏へ之れを諾し、眞の人格は宗敎によらざれば得難し、明日本鄕の小隊にて逢はんと約して返されたのは、見るもなか〳〵美はしき光景であつた。最後に島田三郎氏は『大正の新氣運』と題し、縱橫得意の雄辯を奮つて、別項の如き稀に見るの大演說をなし、聽衆は絕へず喝采して十時半に及んで閉會。

盛夏の折にも拘らず、聽衆五百人、滿堂の盛況にて、極めて有益なる記念會であつた。尙京都支部長原田助氏、群馬支部委員森川抱次氏等より祝電があつた。

# 大正二年度收支決算報告、

（自大正二年四月至同三年三月）

## 收入之部

| | |
|---|---|
| 賛助員收入 | 四五六、七〇〇円 |
| 正會員收入 | 一、一三六、七四〇 |
| 雜誌トラクト收入 | 二七六、九五〇 |
| 廣告收入 | 四三、二〇〇 |
| 寄附金收入 | 二二〇、〇〇〇 |
| 集會收入 | 二〇、六五〇 |
| 現金（前年度越） | 二六、一九〇 |
| 保證金（同上） | 二三、六〇〇 |
| 計 | 二、二〇四、〇三〇 |

## 支出之部

| | |
|---|---|
| 雜誌費 | 一、三三六、一四〇円 |
| 編輯費 | 一二四、七九〇 |
| 印刷製本費 | 九二一、六九〇 |
| 發送費 | 二八三、二六〇 |
| 雜費 | 六、四〇〇 |
| 集會費 | 一二三、八六五 |
| 通信及運搬費 | 四、八一〇 |
| 文具及消耗品費 | 一、九〇〇 |
| 廣告及印刷費 | 三四、三六五 |
| 會場費 | 二一、一〇〇 |
| 交通及旅費 | 三七、四六〇 |
| 謝禮 | 七、〇〇〇 |
| 雜費 | 七、二三〇 |
| 事務費 | 五八三、三四〇 |
| 通信費 | 八三、四八〇 |
| 交通運搬費 | 五五、三九〇 |
| 文具消耗品費 | 一四、七一〇 |
| 廣告印刷費 | 一六、八五〇 |
| 備品費 | 一〇、〇〇〇 |
| 振替口座使用料 | 〇、一八〇 |
| 圖書費 | 一、一〇〇 |
| 旅費 | 一、〇〇〇 |
| 俸給及諸給 | 三九四、〇〇〇 |
| 雜費 | 六、六三〇 |
| 振替口座基本金 | 一〇、〇〇〇 |
| 現金（大正三年度へ） | 一三七、〇八五 |
| 保證金（前年度支出） | 二三、六〇〇 |
| 計 | 二、二〇四、〇三〇 |

## 財產目錄

| | |
|---|---|
| 現金在高 | 一三七、〇八五円 |
| 保證金 | 二三、六〇〇 |
| 振替口座基本金 | 一〇、〇〇〇 |
| 備品 | 三三、六五〇 |
| グレゴリー氏著述 | 六〇、〇〇〇 |
| 廓清叢書 | 一五、〇〇〇 |
| 計 | 二七九、三三五 |

# 大阪支部決算報告

（自大正二年一月至同年十二月）

### 總收入

一金八百五拾壹圓參拾四錢八厘

內譯

| | |
|---|---|
| 金拾參圓四拾八錢七厘 | 前年度越高 |
| 金參百七拾九圓拾錢 | 賛助員會費 |
| 金參百八拾五圓廿五錢 | 正會員會費 |
| 金六拾九圓 | 廣告代 |
| 金貳圓五拾壹錢壹厘 | 銀行利子 |
| 金壹圓 | 寄附 |
| 金壹圓 | 雜誌賣上代 |

### 總支出高

一金八百四拾圓〇六錢

內譯

| | |
|---|---|
| 金七百貳拾六圓 | 本部へ送金 |
| 金四拾六圓九拾八錢 | 集金手當 |
| 金拾七圓〇八錢 | 郵税並諸雜費 |
| 金五拾圓 | 集會費 |

**差引殘高**拾壹圓貳拾八錢八厘

### 會費の納入に就て

會費はすべて前金に御拂込相成候樣願上置候へども滯納の向少からず、整理に差支候につき此際至急左の振替貯金口座により御拂込相成度候。

**振替東京二七〇七二番**

東京市神田區美土代町三ノ三

廓清會本部

追而、大阪支部員に限り左の處へ御拂込相成度候

大阪市北區中ノ島六丁目六番地

廓清會大阪支部

# 天籟地韻

同志が血涙を綴りたる赤誠の大文字
燦として白熱せる人道の靈光に浴せよ

◉ 北海道旭川　西田新藏

拜啓廓清會之爲、愈御奮勵被遊候段、國家の爲奉敬賀候。扨昨年夏より當地遊廓設置請願に付、或部分は大に騷ぎ各部の部長及び村會議員達を訪問し、意見を交換し期の熟するを待ち、去る十二月中旬に、青年會秋期總會を開き其席上副組長は、村會が本村に遊廓設置を請願せんと、決議をなしたり、我等青年會は、如何にすべきやとの尋問を出したり。是より先きに我教會牧師青年會は、意見及び假決議書を草稿し各部長及會員に配付しあれば、同意見の部長及會員は、交々立ちて設置に反對演說をなし、一時は非常なる熱心を以て、大反對を試み最後に於て本村の先輩及村會議員は本村の發展策として遊廓必要を認めらるゝも、我等青年は其成行に任せ青年の内より續々左樣の處へ足を通す樣のこと起らんとせば、由々敷墮落に候はずや、我等に於ては一切必要を認めず、長官に向つて、許可を與へ給はざる樣申請すべしと、決議をなして散會したり、或人々は評して本村開闢以來になき、活氣に滿たる生命を有したる會合なりしと、其々愉快を感じ申候、先づは近況如此に御座候。草々

◉ 高崎市　田中富貴壽

謹啓貴書及び領收證正に拜受仕候、陳者近頃赴任せられたる、我高崎署長安間喜太郎氏は、少壯にして、敏腕の聞へあり、殊に我市の風紀の頽廢を憂ひ、是れが廓清の爲め、部下を督勵して、專心力を盡されつつ有之候、其事實は本日の上野新聞の言論によりて、確證する處に御座候、先達御送り被下候雜誌廓清配附後紙上に於て此の記事を見るは、誠に快心の至に存候、同新聞も社會風教の爲め、大に貢獻せんと欲し居り候に付、時に御高說の原稿御送被下ば、幸甚に御座候本日發行の新聞、吾等の主義として、大に見るべきもの有之候に付、御參考までに切拔き御覽に入れ候間、宜敷御吹聽の程奉願上候

◉ 宇都宮　一會員

前略、其後は永らく報告を欠き居り候、廢娼論の是非を爭ふは、恰も我等同胞が人か獸かを爭ふよりも滑稽にて候。若し吾同胞獸に非らずして人間なるが事實なりとせば、廢娼論は絕對の眞理にて候。然るに吾栃木縣の首府なる、宇都宮市に於ては、來る五月下旬を以て執行さるべき市會議員總選擧に就て、市民は、人もあらうに當地遊廓貸座敷業者清水周次郎氏、清水金作氏、の二名の醜業者を候補者に推薦し、極力運動中にて候。而して彼等は、他候補者に比較し割合に優勢の模樣なり、只今の所にては無論當選は疑ひなかるべくと被存候。嗚呼此一事、以て當地に於ける全般を推して、知得らるべく候、盜人猛々しとは此事か、之れにしても斯る道德的觀念なき市民が、此日本國の中にあることを御記憶被下度候。

◉ 鹿兒島縣　福島武吉

謹啓大正二年は去り、廓清會も三週年紀念會を開かんとし、吾々會員の末輩も、大に自祝の期に到來致し、一層本會のため、努力奮鬪を續けたし、宜敷賢先輩諸氏の指揮を、期待致し居るものに有之候。顧るに、大正二年中には、三万の會員と、三ケ所の支部開設を見、又た大阪の大會其他、本會の主旨を、大に發揮され、今や、全國山間隔地に至るまで、漸く會の可然きを、知らしめ得たりと雖、未だ其全部を、全ふしたりとは、云ひ得ず候、迂生も乍不及、本年は他の會員と共に、同心協力本會の、發展と成効を、求むる者に有之候、「乞ふ、賢明なる諸會員、已がベストを全せられよ」と申度候

◉ 高知市　中山小熊

拜復貴會愈御多祥爲邦家奉慶賀候陳者今回御請求相成候、會費御申越の方法により、御送附可申筈の處、長らく浪人の身にて手元甚だ不如意に有之、今暫く御猶豫相願度候、貴誌は毎號多大の興味を以て、熟讀致し居り候、本縣は維新當時には、多少の名士も出で候へ共、昨今は御承知の通り、孤城落日の感あるものにて、僅かに板垣伯が社會改良に、熱注致し候へ共、宗教の根底を有せざる、社會改良は、所謂砂上の家にて、何の役にも立たざるものに候、尚本縣は飲料に供する、酒量の統計が全國第一位を占め、料亭は大都市をして顏色なからしむべき、宏壯なるものさへあり、誠に國家の爲、慚愧に堪へざるものに候、一日も早く、貴會の主義主張を、縣民一般の頭腦に刻み込み度、焦慮致居り候先は挨拶を兼右申上候。

◉ 江尻町　矢崎喜三郎

去月廿二日、靜岡縣安倍郡大里村字川森主房吉長女せい(二一)は當所に來り、自分は父房吉が營業上



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

失敗破産せし爲め、止を得ず大正元年八月二百圓にて濱松市傳馬町貸座敷立花屋に身を沈め、稼名を茂と稱し娼妓を勸むる事となりしも元より柔弱の質故、同九月中より病氣に罹り身體衰弱せしを以て暫く休業し、大正二年二月幾分病氣回復せしより、再び見世に出で稼ぎたるに、三月中より又々病氣に罹り爾來引籠休業中なるが、近頃幾分健康に向ひたれば、不日又々勸めねならぬ、それが辛さに毎日泣いて日を送り居る次第故、是非救ふて堅氣の人として下さいと淚ながら物語るを以て、其後事實の調査を遂げ、本月三日本人同道濱松警察署に出頭し署長に面會を求めたるに、在勤警部署長に代りて一應せいを取調べたる後、暫く控へ居れとの挨拶故、余はせいと共に控所に居る事二時間餘にして、警部は余とせいを刑事室に招き對坐して云ふやう、余は個人として注意するが樓主も大金を出して抱へる事なれば、双方示談の方法を講じ後廢業の手續をなすべしといふ、余は警部が殊更個人の資格と云ひ且つ示談を勸むるを以て怪しみ二三言語を戰はせしが頑として應ぜざれば、余はせいと共に一先づ警察署を退き、初めせいを貸座敷に周旋せし同所口入業縣豐吉方に至り、樓主側の谷佐太郎、せいの實父房吉の二名を呼寄交涉を試み、翌日漸く穩當なる解決を告げせいは自由の身となれり。

以上は事實より觀察するに警察官は娼妓取締規則を無視して、間接に自由廢業を妨害し、樓主の利益を謀りつゝあるが如く察せらる、若し果して此不義不正の行爲ありとせんか、實に由々敷人權問題に御座候。冀くば本部は速に現內閣に迫りて、彼等の自由を擁護し頑迷なる警察官の頂門に一針を與へしめよ。

茨城縣柿岡町　小又常次郎

◉

擧響ある貴會に入りてより日尙淺きも、自身を矯正せしめたる事多大なる、感謝に不堪候。扨六月號に拜見仕り候所、吾が會に於ては今回會員の運動の爲めにトラクトを出版したりとのこと、就ては聊か國家の爲め盡瘁いたし度に付、切手封入致置候に付左記の通り御送付願上度候。

高知市　刈谷久惠

◉

拜呈、青葉を渡る初夏の凉風肌心地よき頃と相成申候處、御貴會益々御繁榮にて、社會廓清の爲めに日夜御盡力の御事と陰ながら、難有存じ居り候、就ては此の度早速入會御許可被下誠に難有御禮申上候、私事誠に無教育者にて、學校教育など少しも無き賤しき一婦人に候へども、聖なる神樣の御惠により、正直と、男女の貞操は此の上なき寶にて、誠に人たる者の生命とも、相信じ申候、太平洋の沖風清く、自然の風景いと美しき南國土佐の僻地にても、汚らはしき遊女屋多く營まれ誠に男間の墮落する者、甚だしく實に悲しみても、尙餘りある有樣に御座候、折柄御貴會廓清の如き御趣意こそ神樣の聖旨に計ひ、地の鹽とも光ともなりて、淫風吹きすさむ暗夜の雲も何時しかその姿を消し申さんと、相信じ申候故、當地にても御貴會員の、多からん事を念じ候て、知人等に御貴會の趣意目的を紹介致居り候。

名古屋市　高木繁七

◉

梅雨之候、御社益々御盛榮の由、目出度奉賀候、私事に付、毎々御送書下され難有存じ候、御社の御陰樣にて、現世界の有樣が明ろくなり、丁度生れ變つた如くとなるのみならず、生活上にも日増しに樂しく暮し居り候、先は御禮申上候。

サクラメント市　山鹿讓

◉

謹啓、天恩の下益々社會廓清の爲め、御奮闘の段奉賀候、「廓清」毎號御送附下され、誠に有難存じ候、

野生は昨夏より當サクラメント市美以教會に轉居致候、當市は御承知の如く、加州洲廳の所在地にて、排日案を出した、所とし知事ジョンソン氏初め、排日黨の親分の住宅ある地に候、此所にても同胞二千有餘、近在を合算すれば、二三萬人在留致し居候、同胞社會の廓清は、目下の急務に御座候、微力乍らも、常々心掛け居候も、赴任日尙淺き爲具體的に未だ、何等の事業をも爲し不申候も、廓清すべき處多く有之候は曰ふまでもなき事に候、特に當地在多の同胞は常に外人環視の中にある事に候へば尙更らの事に候島田氏述「廓清會の組織の趣意」有之候はゞ一部御送り被下度候。

シャトル市　曾和德三郎

◉

謹啓、貴會益々廓清事業に、御盡瘁相成候事感謝に不堪候、吾人身海外にありて、文明國の事物を見聞する者、誠に此の種事業の必要を感じ申候、小生も當地にて貴會の一員と相成候隨而故國に小生知人間に本誌を配布し、貴會の主義擴張の一端に資したく就いては別紙の五名を次回分より御送本相成度此段御依賴申上候、終りに望み、貴會の發展と其の效果の多大ならん事を、吾等の主に祈り申候。

ロスアンゼルス市　楠本六一

◉

惠まれたる貴會の目醒しき御働き、每號御送附被下候御誌廓清により拜承、限りなく喜び感謝いたし居候。小生儀今回所用あり桑港出帆の天洋丸にて歸朝、一二ケ月滯在の豫定に有之候。貴會の役員諸氏に相接するの榮を可得、喜びに不堪候余は拜眉の上萬々申述候。

**會員諸君の投書寄稿を望む**



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

# 雜誌の雜誌

## ○宗教界

### 基督教と思想上の戰備　小崎弘道

第一●我國に於ける最も有力なる思想は佛教の感化影響をうけたる汎神的思想なり。此思想によれば神は宇宙萬有の中に遍在する一種の法則にして、唯一にして無二の人格的實在にあらず。然るに吾等の立場は、神は一個の人格的實在なれば如何にするも吾人は彼等の汎神的思想と一致する能はず。我等は極力此思想に反抗し基督教の人格神を宣傳せざるべからず。

第二、我日本國民程國民的思想の旺盛なる國民は他に之を見出すべからず。我國民は其物質的文明に於て、又學術技藝に於て、世界的、進取的態度を取れども、獨り宗教道德の點に於ては宛然開國以前の思想を墨守し、世界的精神を忌むこと蛇蝎の如し。吾人は極力此の偏狹なる民族的精神の打破に努めざるべからず。

第三、我國民の大弊は世俗主義者なる事也之れ卽ち宗教をぬき去れる倫理道德思想にして、儒教の感化を受けしもの也。我國現代の學者、政治家、教育家は皆此の思想に支配せられ、宗教は愚夫愚婦の事にして識者の信奉すべきものにあらずとなす。乍併宗教なき道德の無力なるは茲に說くを要せず。宗教的觀念なくば正義を行ふ能はず、罪惡を卻くる能はず、貞潔の德を完うし難し之れ我國に頻々として敗德者の續出する所以也。吾人は彼等に向つて宗教的信念の必要を高潮せざるべからず。

### 基督教の社會的使命　海老名彈正

我國の男女間の關係の如きは殆んど語るに堪へず、然もこは現時代のみに止らず、德川時代より遡りて奈良平安朝の時代に至るまで、皆然らざるなし、之れ日本國民の大なる弱點にして、此點に於ては堂々たる儒者にして猶ほ之れを免るゝ能はず、僧侶の如きは古來貞操問題を云爲する資格あるものあるなし。彼の二宮尊德すらも、此の點に於て非難なしと云ふこと能はず。而して此惡風は現代に於て更に甚しく、殆んど人心を靡爛しつゝあるなり。吾人は極力之と戰はざるべからず。初代のクリスチヤンは如何に善く之と戰ひたるか、聖書は具さに其消息を語れり。彼のエルサレムに於ける使徒大會に於て、異邦人に對してなせる要求の中、男女問題につき極言せる一項は、如何に貞淸純潔を理想とせるユダヤ人が、異邦人の道德的弱點に對するに嚴なりしかを語るものにして、其他パウロがコリント人に與へたる書翰等に見るも當時の所謂異邦の社會が如何に腐敗せしかを想像するに難からず。現代の日本は一面當時の希臘羅馬の社會と髣髴たるものなしとせず。此に於てか、我が基督教會は其旗幟を鮮明にし、飽までも積極的態度を以て、之と戰はざるべからず。（基督教世界）

## ○政治界

### 選擧權と民衆　東洋經濟主筆　三浦鐵太郎

吾人が人間としての參政權要求は殆んど絕對なり。何物とも此要求惡を退け得る權利なし。只頑迷なる保守黨、時機尙早といふ口實に隱れてやゝもすれば吾人の此の神聖なる要求を退けんとす、彼等が政治上の先取地位を利用して後に覺めたるもの、正當なる要求を退くるに於ては、後覺者は非常手段に依るに非ざれば其正當な要求を徹底せしめ難し。モッブ若し罪惡なりとすれば、其罪惡の責任は正に頑迷政治家の負ふべきもの也。

一八三二年腕力を以て參政權を獲得したる英國の男子が、一九一三年、婦人が腕力を以て參政權を獲得せんとする運動を罵り、其要求を斥くるは時代錯誤にあらざるなきか、英國男子が婦人の要求を斥くる久しきに亘れば、婦人のモッブは遂に革命にまで發展するは必定也。而して是れ單に英國の問題のみにあらず、我國の先憂後樂の志士は須らく前車の轍を見て戒むる所なかる可らず。而して吾人は熱心に、千七百八十萬の日本の靑年に告げんと欲す、『御身等速かに英國婦人の如き熱心を以て參政權要求の叫びを擧げよ！』と。よし普通選擧が時期尙早ならば、普通教育を以て最低限度とせん。これ以上の讓步は國民として屈辱也。（第三帝國）



EAST ASIAN LIBRARY

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

### 大隈内閣の非募債方針

本多精一

現内閣の財政經濟上に於ける中心政策は、改めて云ふ迄も無く、曩日政府が聲言したる絶對的非募債主義であると認む。併し乍ら退いて考ふると、此絶對的非募債と云ふ事は、言ふに易く實行に難き問題で内閣にとつては、極めて重大なる大方針である。されば從來これを聲言した内閣も無いでは無いが、皆失敗に了つた。然るに現内閣の非募債主義は、若槻藏相の聲言に依れば、從來唱へられたる、生産的の性質を帶べる事業の爲めには、公債を募集するも妨げ無しと稱せられたる、所謂積極方針をすらも否定して、鐵道其他の生産的事業と雖も、今日の場合其資金は、公債募集に因るべからずと唱へらるゝ處を見ると、少くも現内閣の非募債主義は、第二次桂内閣の非募債主義とは其選を異にし、内國債は云ふ迄も無く、外國債と雖募集せざらんとする、所謂絶對的非募債主義換言すれば眞正なる意味に於ける名實共に全き非募債主義であると解す可き樣である。

吾人は斯くの如く解し、斯くの如く信じ度い、何となれば我邦財政經濟の狀態を今日の悲境に陷らしむるに至りたる、唯一と云はれざる迄も、最も主なる原因は公債政策に依る事は改めて云ふ迄も無い事で、現内閣の主班たる大隈伯の如き其在野の時代に於て、夙に其積弊の因つて來る處を察し、これを非難攻擊せられた處であるからである、而して現内閣は大隈伯の率ふる處の内閣であり、而も其政見の一部として右に述べたる如き聲言を敢てしたるに於てをやである。而して是れを我國年來の宿題たる、外國貿易と、兌換制度の二點より見るも、眞に名實共に相副ひたる絶對的非募債主義が實行せられ、其宣言が全うせらるゝや否やは少からざる疑問とせればならない。乍併吾人は徒らに今遽かに之に對して何等の豫斷をも試むまいと思ふ。何となれば樂觀せんとすれば、樂觀す可き理由も發見し得可きと同時に、悲觀する理由が無いでもないからである。結局其成否は、これを事實に徴するの外はないから單に警告だけに止めて置かうと思ふ。（新公論）

## ○思想界

### 新哲學の精神

中澤臨川

哲學の復興は現代の大勢である。あれを一時的の流行と見做す者は短見者流である。それはやがて廿世紀に於ける精神的復活の一般潮流を示してゐる。理知的唯心論はカントに到て其頂點と行詰りを示し、新に起つた唯物論も僅々四五十年を命として、脆くもその缺點を曝露した。世は目まぐるしく變つた。在來の宗教道德も最早我等の上に絶對の權威を有たなくなつた。その間空虚と暗黑に堪えぬ我等の心は何等か新しい要求に悶えた。廣い意味の哲學的要求が我等に再興した。然るに在來の哲學者は恒久の眞理と稱する美しい名のもとに沒人格的なバベルの塔を築き上げたり、枯渴萎靡した理知の遊戲に耽つて實在の生命を忘れようとしてゐた。斯樣な思想は勿論近代人の要求を滿足さすべくもない。我等はもつといゝ我等の生命に近い新哲學を促さゞるを得ない。『今日の哲學界に於ける一種異樣な不安は見遁し得ない顯象である。……是等の不滿足は主として其説の餘りに抽象的、學究的であることに歸因する。生命は多岐でまた滿ち溢れて居る。で、新時代の要求する所は、たとへ論理的正確と形式上の純粹に於て多少の値引はしても、その哲學により多くの生命の氣分を欲してゐるらしい。超自然的唯心論は、そが「絶對主體」とそが目的の統一にも關らず、世界を搖ぶつて不可解のものとしてゐる。バークレーの唯心論は吝嗇主義を棄てゝ全精心的空想を漲らしてゐる。また、經濟論は目的觀と戲ざけ、最も奇怪にも自然的現實主義が永く埋められた芝生から頭を出して、四方から再び之を引き起さうとする歡迎を受けてゐる。私自身も現存の解説には滿足能きない一人である。で、偉大な動搖の徴候を見て、宛かもより眞實な概念とより有効な方法とが近づいたかの如く想像し、もつと剪りつめられないもつと尖らず自然的な眞の風景の開展を期待してる』とはウイリアム、ジエームスの述懐である。而して斯樣な要求に最も協つた物は即ちベルグソンの哲學ではないか。なぜならば、彼は我等の直接實在即ち意識の忠實な闡明者であつて、潑溂たる生命の學の使徒であるから。ベルグソンが現代人の感興を牽く第一の原因は此處である。（中央公論）

## ○修養

### 飯屋でベルグソンを讀む女

野口米次郎

ロンドン幾百の飯屋はライオン、ABCの二大會社の何れかに屬して居るが、午後一時半から二時半頃に行つて見ると、商店の番頭、賣子の女で一杯になつて居るが、それで少しも混雜しない。偶には後から來たものが、先きに皿を受取る事もないではないが、別に苦情を云ふものもない。人を叱つたり怒鳴つたりするのは、多數の人に不快の感を與へ、ボーイを周章させて、自他の迷惑となる事を、チヤンと心得て居る。三十分位は靜かに待ちながら本を讀んで居る。或る時私の傍に坐つた女が

フランスの哲學者ベルグソンの「笑」を讀んで居つたので面喰つた事がある。かう云ふ女はロンドンに幾らもある。下層に生れ、教育費が安い社會に育ち、其の境遇に安んじて、讀書の快樂を追ふ男女が澤山ある。(新日本)

## 西洋人の見た日本人の不行儀

山内　節子

(一)手ばなしでクサミや咳をする事。

(二)公衆の面前で鼻拭を使ふ事

(三)人の氣に付くやうな大きな吐息を洩したり、欠伸をしたりする事。

(四)口笛を吹いたり口拍子を取つたりする事。

(五)伊太利人や支那人は無暗に唾を吐きます日本人も之に次ぐさうです。

(六)他人の前でお化粧をする事、例へば汽車や電車の中で懷中鏡や白粉紙を使ふが如き。

(七)ぼんやり口を開いてゐる人が多ければ多い程その文明の程度が低いと申されます。

(八)額に八字型のシワを寄せたり、ひどく眼をしばたゝいたりするのは餘り上品ではありません。

(九)西洋では人差指で人を指すのはぶしつけだとなつて居ります、殊に公會の席上で。

(十)公開の席、殊に宴會に出席してゐる時に、頭をつき合せてヒソ〱話をしてはいけません(婦人世界)

# 〇生活

## 複雜生活

茅原　華山

衣食住の簡易生活といふ事は私は大して問題にする程の事ではないと思ふ。日本人などは、世界中でも有數の簡易生活の民である。是以上簡易にはなれぬ。米が高いからと云つて、麥にする、麥が高いと云つて粿にする。段々下つて遂には何にも食はないが一番簡易だといふ事になる。元來日本の簡易生活は主義からやつてゐるではなく、大抵境遇上止むなくやつてゐるのだ。こんな工合に手段としたる簡易生活は所謂第二義のもので、毫も貴ぶべき所はない。日本人は少しの難儀に會へば、直ぐ逃避したがる。實に卑怯な話である。米が高いと云へば、麥に逃げ麥が高いと云つて粿に逃げるやうでは、誠に心細い限りである、米が高ければ何故之を安く買ふ樣に運動をしないか、積極的態度に出でゝ、仲買の制度を改良するとか、關税を撤廢せしむるとか、米價調節の方法は幾らもある。兎に角大に儲けて大に費ふといふ方針で進む樣にならなければならぬ。吾人の理想としては、何でもよいから、一元の生活をしたい。食物でも世界中の粹を集めた理想的のものを用ゐたいが、之が得られないとすれば、朝は日本食、晝は支那料理晩は西洋料理といふ工合にやりたい。少々位複雜でも衞生には代へられない。要するに日本人にはまだ〱簡易生活などを稱へる資格はない。寧ろ將來一層高價な複雜な生活をして、積極的に進むべきである。

## 樂んでやれ

高島　米峰

凡そ世の中の事は、何でも樂んでやるが肝要である。如何許り結構な事をしても、心中樂んでやるでなければ、夫は大して價値ある事とは云へない。私の樂むといふのは、今日の所謂享樂主義を指すのではない。今日自然派などの主張する官能的の快樂は、決して人間の眞の快樂とは云へない。眞の快樂は內より之を樂む事である。孔子曰く、之を知る者は、之を好む者に如かず、之を好む者は之を樂む者に如かずと、此言に依つて見るも、樂むといふ境地は確かに道德以上の境地である。即ち之を知るは智識之を好んで行ふは道德、之を樂むは、宗教の信仰である。此意味から云ふと孔子は立派な宗教家である。普通の場合には、之を好む位の程度で宜けれど、一朝天變地異其他大變動のあつた時には、心中深き所に、餘程確乎した信仰でもなければ、到底動搖せずには居られないのだ、簡易生活の根本精神も亦樂みの中に無ければならぬ。外的條件が如何に具備しても、內に之を樂むの心がなければ、其生活は頗る無意味なものと云はねばならぬ。又物質的の簡易生活の方でも、質素にするからと云つて、瓦斯、電燈を廢めて洋燈にするとか、洋燈は無益だから、行燈にするとか、かういふ風に消極的になつては、成程金錢上では經濟になるかもしれぬが、その不便には到底堪へられないであらう。又行燈の煤などの爲に家族の健康も害せられるから、醫藥代などを見込むと、行燈の方が却つて高價に付く事になるかも知れない。徒歩主義は成程結構であるが、急用なれば、電車に乘り、車に乘る事も許されねばならぬ。忙しい人が自動車や馬車に乘るは當然の事で、決して無用に財を散ずるといふではない。(新日本)

# 〇家庭

## 安くて滋養の多い食物

安部　磯雄

消極的の方法即ち食物の營養分の上から研究しても、餘程經濟的に改良することができます多くの人は牛肉や鷄肉乃至は、鷄卵の如きものさへ用ふれば、それで滋養は十分だと考へるので、無理算段をしてまでも、これ等の食料品を買ひ求めようとして居るのでありますが、身體の榮養上から申せば、必ずしも肉や卵に限る必要ありませ

ん。學者の説によれば、大人一日の營養分は、蛋白質三〇匁、脂肪一五匁、含水炭素一三三匁を必要とするといふことです。して見ますと、これ等の養分を最も多く有して居る食料品こそ、最も理想的のものなのであります。それ故、何も高價なる牛肉などを食べなくても、他に價の安いもので養分の豐富なものが幾何もあります、それに含水炭素といふのは何を食べても得られますから、一番必要なものは蛋白質と脂肪とであります。

價格が安くて、蛋白質の多いものを示しますと、大豆、三割三分、小豆 二割二分、蠶豆 二割八分、落花生 二割四分、生鯖 二割一分、乾鯡 六割八分、干鱈 七割三分、田作 六割九分の如きものがあります。この反對に、蛋白質の比較的に少いのは鯛 一割八分、鰻 一割八分、鯉 一割八分、鮎 一割七分、鮪 一割五分、鷄肉 二割一分、鷄卵 一割四分 牛肉 一割八分等であります。

## 都會で出來る避暑法

向 軍治

以前は立川に家を借りなどして避暑もして見ましたが一體都會を去つて避暑をすると云ふ必要は、平生と異つた生活、即ち生活の單調を破ると云ふことにあるのであつて、人間は凡ていつも同じ生活を續けることは宜しくない。頭腦ばかり使つて居るものは、時に全く變つた、手足を動かす仕事をするのが非常によい。反對に身體を多く動かして居るものは、時々靜に讀書でもする必要がある。で、土地を換へると云ふことも勿論惡いことではないのですが、土地だけ換へて平生と同じやうな生活をするのでは面白くない。殊更に異つた土地へ行かないでも、夏のやうに凡て生き〳〵として、身體も輕く家も室も開放されるやうな時に、平生餘り手にかけなかつた、庭木の手入をするとか、畑をいぢるとか云ふ變つた仕事をするのは、甚だ結構なことだと思ひます

# ○育兒

## 母乳と人工營養の利害

稲原醫學博士

母乳の哺育を廢して牛乳其他の乳粉による人工營養で産兒を養育するものが段々多くなつたそれは文明を以て誇つてゐる歐米諸國に於て殊に甚だしく、その不自然なる人工營養が如何ばかり恐るべき惡結果を來すかといふことは、樣々の統計が明らかに之を證據立てゝ居る、今その二三の顯著なる事實を擧證する。先づ伯林に於ける或醫學者の統計に依ると、母乳によつて育つた嬰兒の一ケ年間に於ける死亡者八百八十人に對して、牛乳其他の人工營養によつて育てた嬰兒の死亡は、六千六百三十一人或年は又前者の八百四十一人に對して、後者が六千九百八十二人、即ち人工營養によつた嬰兒の死亡は母乳哺育の嬰兒に比して七倍強若くは八倍強に當つて居る。(日本の家庭)

## 薄着の習慣

醫學博士 加藤 照麿

次に子供に薄着で濟むやうに習慣をつけてやりたい。生れての嬰 兒は別として、自由に遊びまはるほどの子供で、薄着のために風邪をひくといふことは、殆ど稀であるけれども、前にもお話したやうに、厚着のために、始終汗ばんだりして居ると、汗はひく度に體溫を奪うものですから、却て風をひく機會が多い。夜のものを厚く着るなども同じことになります。

併し混同してはならないのは、汗の出るといふことは、惡いことだといふのではない。ひどく走つたり働いたりすると、盛んな循環によつて、血液が熱して來るから汗が出る。またあつい日に汗が出る。その汗の出るといふことは、體溫を調節するために、非常に大切な作用なのです。また時々汗の出るほど働くことは、身體の新陳代謝を盛にする。健康のために極くよいことであるけれども、厚着をしてゐて、一寸歩いても汗が出る、空氣中の溫度が少し高くなつても汗が出るといふやうなのは、唯風邪をひく原因になる丈けのことである。薄着にしてゐると、少々涼しくなつた場合には血液が餘計に働いて體溫を保つて行く、それがまた健康によいことになる。寒暑常ならざる氣候にも、薄着の習慣さへついてゐれば、風を引かないで濟むやうになります。汗はまた出る度に拭くことが必要です。肌着は度々取換へることも必要です。(婦人の友)

# ○談叢

## 動物に似たる植物

理學博士 伊藤篤太郎

舞萩と言ふ面白い植物があります。支那では此れを舞草と名づけてるが、矢張熱帶の産で萩の一種です。然し萩は三枚の小さい葉からなる複葉で、然も三枚とも大きさが同じです。此舞萩は中央の一葉が特に長く大ざく、左右の二つは極めて小さい。此草は實に面白い性質を持つて居て、攝氏二十二度以上華氏七十一度六分以上の溫度になると、兩側の小さい二つの葉はヒラ〳〵と舞ひ出す。其運動は極めて微妙で、恰度團扇であふぐやうです。成程暑いから涼味を入れるのだとも思へて、眞に滑稽です。

尚動物を食する植物で、熱帶地方に産するうつぼ草



Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

といふ奇妙なのがあります。此うつぼ葛は一種の草ですが、葉の尖端に袋が附着し、袋には穴があつて、穴には蓋がある。葉が未だ若い時には此蓋は閉ぢられて居るが、生長するに從つて開きます。袋の中には甘い蜜のやうな液汁が貯へられて居る。其れは全然砂糖蜜に變らないのです。で、種々な昆蟲は此袋の中の甘い液汁に誘惑せられて、袋の縁にとまる、そして中の液汁を吸ひ度い許りに袋の中を覗くが最後、其途端に昆蟲は足を踏み滑らして、中へ落ち込み溺死して終ひます。此れは内部が極めて滑かになつて居て、一寸でも足を踏み入れると、直ぐに滑り込むやうになつてる。即ち動物の胃袋の中に植物が這入つた時のやうに此等昆蟲は袋の中で直ちに消化されて終ひます。うつぼ草の此捕蟲器は種類に依つて、様々なのがありますが、何れも奇妙な形をして居ます。特に此ボルネオ島のキナバル山の高處に生ずるものは美麗で、中にもフッカーのうつぼ草の袋の如きは非常に大きく小鳥を捕へるのもある。大きさに於ては鳩位の鳥が這入る袋を備へるものもある。先年米國の或新聞紙で鳩を捕へて食するなどと報道せられましたが、まさか、鳩迄食す事は出來ますまいが、食肉植物の中では眞に珍らしいものでせう。

## 蚊の媒虫と撲滅法

雄の蚊は常に植物の汁を吸つて居て決して人を螫さない。我々を惱すのは受胎した雌の蚊で、之等は體内の卵の成熟上自然血を要する處から、人や獸の血を吸ひに來るのである。雌蚊でも間斷なく血を吸ふのではなく、要るだけ吸へば直ぐに卵を産み付ける場所を捜しに出かける。卵を産み付ける場所は、卵が孑々となつた際に、食物に困らぬやうに、成る可く黴菌の多い水面を選ぶ尤も如何に食物は豐かでも風に吹き飛されたり、押し流されたりしては困るから成る可く風當りの惡くて流れのつかない水面を見付ける。また蚊は日光を嫌ふから日陰を選んで産み付ける。

孑々から蚊になる時は、何れも尾の所に呼吸管があつて、之を水面に突き出して空氣を吸ふ。時折は水中に沈んで黴菌や微生物を食ふが、是非共空氣を吸はなければならぬので、數分毎には必ず浮き上る。水面に石油を撒くと、油は水と混らずに水面に膜を作るから力の弱い孑々は膜を破つて空氣を吸ふ事が出來ない爲に、三十分も經つと直ぐに死んで了ふ。我々を螫すのは雌許りで雄は家の中へは滅多に來ない。大概は水面の邊に群つて居て雌の來るのを待つて居る。夏の夕によく見る蚊柱は、大勢の雄が一所になつて雌を迎へて居るので、人間共の血で飽腹した雌蚊も急いで蚊柱の群へと行く時は蚊にとつては最も樂しい際だ(生活)

## 婦人が副知事の候補に立つ

英國の婦人運動は益々獰猛になつて來た、そして之れに對する反感は愈々甚しくなつて、此頃は戰闘派のパンカースト女史始め數十人を島流しにしやうとか、或は慘忍なる私刑に處せやうと迄論ずる者がある。然るに米國では既に參政權を得て居る州か大分にあつて、カリフオルニヤ州では本年十一月を期して知事と副知事の改選を行ふ事になつたが、其副知事の候補者には婦人が推されて居る。知事候補者は現任のジョンソン氏に對して移民總監キアミネット氏を推して居るが、副知事の候補者はウキリアムソン女史に對してキアミネット夫人が現れた。同州では本年から婦人に參政權を附與したので副知事に婦人候補者が現れた譯だが。キアミネット氏が夫婦で知事と副知事の候補者に立つたのは面白い。

### 會費の納入

從來會費の納入は、爲替、切手、郵便集金等によりたるが以後はなるべく左の口座により拂込相成度し

振替東京二七〇七二番

東京市神田區美土代町三ノ三

廓清會本部

電話本局四九四〇番

### 會員の文書

雜誌及會費に關する書信等は便宜上すべて左の處へ宛てられ度し

東京市神田區今川小路一ノ三

伊藤秀吉方

廓清編輯所

大正三年七月十四日納本　一部定價金六錢
大正三年七月十五日發行（毎月一回十五日發行）

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三河町一丁目十四番地　小林照雄
印刷所　神田區三河町一丁目十四番地　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓清發行所

which in the early years of Meiji was definitely framed so as to prohibit all trade in human beings as a degrading slavery. He pointed out the *Kashi-Zashiki* method of legalizing vice by technically making these unfortunate women merely renters of rooms which they may use for their own purposes, is a palpable subterfuge, winked at by the authorities, who well know that these houses are kept and controlled by the human demons who fatten on the shame of their willing and unwilling victims. This is indeed as glaring an instance of *Yumei mujitsu*-saying one thing and doing another as Japanese history furnishes, and it still is practised with the open connivance of Japanese officialdom.

The present furnishes a peculiarly fitting opportunity to press for the rehabilitation of the law already on the statute books, by which this whole nefarious system would be swept out of existence by one supreme act of the central Government, and the Purity Society is already in sympathetic negotation with the Premier and those officials who have direct responsibility in these matters, with a view to the attainment of the goal the society set before it in the beginning-viz. not only the inculcation by pen and voice of wholesome ideas and sentiments regarding personal purity, but the securing of legislative action which will abolish this awful traffic in human lives.

This word is sent out in the English language particularly for the benefit of all foreign residents in Japan who have at heart the social purification of this nation that we love. The Japanese leaders of this movement, while not wishing to shirk their own responsibility for pushing the battle to the gates, are sincerely anxious for the sympathetic and active Co-operation of all their foreign friends, who, they say, can do a kind of word in connection with it, which they themselves cannot do-viz. by word and deed to awaken and deepen the sense of shame for this whole atrocious business, which comes from frankly showing the irreparable damage done to Japan's fair name among the most civilized of foreign nations by governmental sanction of a system which degrades and corrupts Japan's only hope for the future-her youth, and poisons the very springs of life of the whole people.

Let us gladly share with our Japanese brothers and sisters in the active propaganda of the coming months, first of all by becoming members of the Purity Society, and then in our several spheres bringing whatever influence we have to bear in the most effective way at the right quarter for the speedy elimination of this terrible evil which is sapping the life-flood of this nation and hindering more than any other one thing the welcome of Japan into the deepest international fellowship.

*Harper H. Coates.*
*Aoyama Gakuin, Tokyo.*



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

2 — 786

# THE PURITY

Published monthly at the Head Office of the Purity Society,
No. 3, Sanchome, Mitoshirocho, Kanda, Tokyo.

Vol. IV July, 1914 No. 7.

## CONTENTS.

New features of "Taisho" era.
By Mr. S. Shimada, M. P.
Commarcial degeneration of Japan.
By Mr. I. Morimura.
Our Responsibility to next generation.
By Prof. Uchigasaki.
Tendency of the Reform work.
By Dr. Inouye.
Defects in humanity.
By Mr. S. Hattori.
Confession of a saved woman.
By Miss Sato-ko.
Business Report for 1913.
By Mr. M. Masutomi.
Notes of General Meeting of the Society.
By Editor.
Financial Report for 1913.
By Mr. K. Yamamoto.
Tenrai—Chi-in
By Members of the Society.
Reviw of Reviws.
A Greet forward social movement.
By Dr. H. H. Coates.

## A GREAT FORWARD SOCIAL MOVEMENT.

It is three years since the Purity Society was organized and they have been busy years of aggressive effort on the part of its leaders, with a very gratifying response on the part of Japanese society. The Conscience of the nation has been fast awakening to the horror and shame of the whole system of licensed vice for which Japan has gained an unenviable notoriety throughout the world. Our good friend Mr. Maurice Gregory rendered an invaluable service to the whole movement, coming to us, as he did, at a time when things were ripening for action, and now we are entering upon a new phase, with a Cabinet in power which, from its Premier down, is genuinely committed to the serious word of the purification not only of the body politic, but of the body social as well. Count Okuma's active co-operation with this word of social purity dates based far beyond the period of the Purity Society of which he is Honorary President. At one of our meetings in his home when we were getting organized, he assured us that the whole system of licensed prostitution in this country is a direct violation of both the letter and spirit of Japanese law,



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY